

2025・26

ANNUAL REPORT

ROBERT T. HUANG ENTREPRENEURSHIP CENTER OF KYUSHU UNIVERSITY



新たな価値の創造に挑み続ける。

九州大学 ロバート・ファン／
アントレプレナーシップ・センター (QREC)

〒819-0395 福岡市西区元岡744 センター5号館7階
TEL:092-802-6060 FAX:092-802-6065
URL:<https://qrec.kyushu-u.ac.jp>
E-mail:info@qrec.kyushu-u.ac.jp

QREC
公式SNSは
こちらから





ROBERT T. HUANG
ENTREPRENEURSHIP CENTER
OF KYUSHU UNIVERSITY

FOCUS ON

THINK GLOBAL ACT LOCAL

QRECでは、九州大学の全学学生を対象として、先進的で体系的なアントレプレナーシップ教育を行うとともに、同教育において定評のある国内外の大学等との連携を構築し、教育・研究活動を行っています。



Dr. ROBERT T. HUANG
シネックス・コーポレーション創業者、前会長
九州大学 名誉博士

九州大学 ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター(以下QREC)は、本学卒業後渡米し、大成功をおさめたロバート・ファン博士の本学百周年記念寄附をきっかけに、旧ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを抜本的に改組・再構築して2010年12月に設立されたアントレプレナーシップに関する本格的な教育・研究センターです。

CONTENTS

1 FOCUS ON AN OVERVIEW OF QREC

- 00 / QREC概要
- 02 / 沿革
- 04 / 使命
- 05 / 活動内容
- 06 / QREC教育プログラム
- 07 / QREC科目の体系

2 FOCUS ON LECTURE

- 09 / 講義スケジュール
- 10 / QREC履修者データ
- 12 / 講義ピックアップ
- 24 / PARKS
- 26 / 研究プロジェクト
- 28 / 国際シンポジウム

3 FOCUS ON ORGANIZATION

- 30 / 2025年度の組織

4 FOCUS ON STUDENT INITIATIVE PROGRAMS

- 34 / 学生の独創的活動支援
- 46 / アクセラレーション・プログラム
- 48 / 九創会

5 FOCUS ON FACILITIES

- 50 / QREC施設

51 / プレミアムメンバーズ

52 / 寄附者紹介





沿革

HISTORY

これまでの歩みを年表で振り返ります。

- 1996 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL) 設立 ※QRECの前身
- 1997 全学プロジェクト: チャレンジ&クリエイション (C&C) 開始
- 2004 起業家セミナー (現アントレプレナーシップ・キャリアデザイン) 開始
- 2006 九州大学 ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・プログラム (QREP) 開始
- 2007 学内共通施設使用開始 (産学連携棟 I)
- 2008 アカデミックチャレンジ (AC) 開始
- 2010.12 **ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター (QREC) 設立 (QRECの前身VBLを改組)**
- 2010 インキュベーション施設の管理・運営、大学内研究室・大学発ベンチャー企業が入居 (2011~)
- 2011.1 **ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター (QREC) 設立記念シンポジウム開催**
- 2011.4 基幹教育科目: 16科目の正規講義を開講 (2020年度時、30科目まで拡大)
- 2011.6 学生交流スペース「シリコンパレールーム」オープン
- 2011.7 日本創生ビレッジ (三菱地所) と提携
- 2011.11 九大祭起業体験プログラム (QSHOP) 7店舗が九大祭に初めて出店
- 2011.12 サンブリッジ (米国) と提携
- 2012.1 在福岡米国領事館と共催で「ブラウンバッグランチ・セミナー」開催
- 2012.3 東日本大震災をテーマにしたアジアラウンドテーブルを開催、ビデオ会議システム (遠隔講義システム) 導入
- 2012.4 キャンパス間を結んだ遠隔教育開始
- 2012.8 学生インターンシップ開始



- 2012.9 全国VBLフォーラムを主催: 全国45大学対象のVBLフォーラムの主催校として福岡にて開催
- 2013.3 初のQREC修了証授与
- 2013.6 QREC教員指導の学生達が米国ビジネスプランコンペで優勝 高田准教授 (当時) の指導する工学府水素エネルギー専攻の学生グループが米国エネルギー省 (DOE) 主催の“HYDROGEN STUDENT DESIGN CONTEST 2013”で最優秀賞受賞
- 2013.6 2013年度 (平成25年度) 科学技術白書にQREC教育が掲載
- 2013.8 新興国アントレプレナーシップ開講 バングラデシュ研修実施
- 2013.9 アントレプレナーシップ教育に関する3日間の国際ワークショップ (IWEE) 開催
- 2013.12 QREC / KASTEC連携 バイオベンチャー・セミナー開催
- 2014.3 QRECアラムナイ (同窓会) kick offミーティングを三菱地所と共催
- 2014.8 フィンランド、アールト大学との連携協定締結
- 2014.8 グローバルPBL授業開始 (アールト大学・芸術工学部と共催でフィンランド現地研修実施)
- 2014.8 文部科学省のグローバルアントレプレナーシップ育成促進事業 (EDGEプログラム) に採択 (2014年度~2016年度)
- 2014.8 QREC / KASTEC連携 バイオベンチャー・セミナー開催
- ーデジタルものづくりの進展は、個人、企業、地域をどう変えるかー
- 2014.8 海学へのビジネスプランコンペへの参加支援制度開始 (グローバル・チャレンジ&クリエイション (G.C&C))
- 2014.11 第9回ニッポン新事業創出大賞「支援部門」最優秀賞の経済産業大臣賞を受賞
- 2015.3 イノベーション教育学会 第3回 年次大会を主催

- 2015.6 文部科学省EDGE事業 新興国アントレプレナーシップ・キックオフセミナー
- 2015.8 スウェーデン、チャルマース工科大学より講師を招聘し、アントレプレナーシップ教育者のためのセミナーを開催
- 2015.9 バングラデシュ、ダッカ大学との連携協定締結
- 文部科学省EDGE事業 QREC&九州大学システム情報科学研究院 / ダッカ大学FBS部局間提携記念シンポジウム
- 2015.9 伊都キャンパスへの移転: 「シリコンバレー・ルーム」「ミーティングルーム」パブリック1号館2階にオープン
- 2015.12 ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・プログラム (QREP2.0) ヘリニューアル
- 2015.12 「QREC工房」伊都キャンパス パブリック1号館2階にオープン
- 2016.5 QRECオープン工房の開催
- 2016.6 第1回Startup Weekend Fukuoka Uni. in Kyushu University開催
- 2016.6 野村総研・QREC連携コンサルティングワークショップ開催
- 2016.10 学内産学連携組織強化の組織改編に伴い、QREC教員が学術研究・産学官連携本部所属に変更。QREC、学術研究・産学官連携本部 (AiRiMaQ)、グローバルイノベーションセンター (GIC) の学内協力関係強化
- 2017.4 学生のプロジェクト・サークル等活動支援プレミアムメンバーズ認定制度開始
- 2017.6 九州大学起業部設立 (発足時点で150名の学生が部活へ登録)
- 2017.7 平成29年度文部科学省の次世代アントレプレナー育成事業 (EDGE-NEXT) に採択
- QRECが九州大学の中心となって応募 (2017年度~2021年度まで)
- 2017.9 チームラボと福岡地域戦略推進協議会 (FDC) の共催で、「チームラボ×まちづくりワークショップ」を初めて開催
- 2017.11 第1回九州大学ビジネスプランコンテスト開催
- 2017.12 日本ベンチャー学会第20回全国大会「テクノロジー・スタートアップと地域エコ・システム」開催 (幹事校: 九州大学)

- 2018.5 NEDO: 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構と起業家育成支援相互協力締結
- 2018.8 スウェーデン、チャルマース工科大学と連携協定締結
- 2018.9 株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ (FVP) と共同研究契約を締結、FVPと共同で大学発ベンチャー創出を支援する「FFGインキュベーションプログラム」を新設 ※2018年10月開始
- 2019.3 伊都キャンパス、センター5号館、6号館へ移転 (学生利用設備の拡充) 「QREC工房」および「ToP」がセンター5号館 7階にオープン 「BasE」がセンター6号館 2階にオープン
- 2019.4 新入生向け「第1回QRECガイダンス」開催
- 2020.4 新型コロナウイルスの影響によりすべての授業をオンラインにて実施
- 2020.7 内閣府のスタートアップエコシステム拠点形成事業に採択 (福岡市他との共同事業)
- 2020.12 **ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター (QREC) 設立10周年**
- 2021.3 JST「社会還元加速プログラム (SCORE) 大学推進型 (拠点都市環境整備型)」に九州大学「GAP-NEXT」が採択
- 2021.4 これからの日本を支える人材育成のサポートを目的とした「九創会」の設立
- 2022.5 国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) による「大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援」の採択を受け設立された「Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS)」の主幹機関として活動
- 2023.12 世界中の研究者とのネットワーク形成およびアジアにおけるアントレプレナーシップ研究・教育の更なる発展を目指し、「第1回アントレプレナーシップ教育に関する国際シンポジウムinアジア」を開催
- 2024.8 テクノロジーの事業化に向けた仮説検証を短期間で集中的に行う「アクセラレーション・プログラム」を2023年度のパイロット版を経て本格開始
- 2025年度春プログラムより名称変更「テック・ブートキャンプ」

C&C 2017
採択プロジェクト起業
◎メドメイン株式会社
(九大起業部からの起業第1号)

C&C 2019
採択プロジェクト起業
◎株式会社nanoFreaks
◎株式会社Actra

C&C 2016
採択プロジェクト起業
◎日本風洞製作所
◎株式会社糸島ジビエ研究所



FOCUS ON

1

TRY

AN OVERVIEW OF QREC



使命

MISSION



新しい価値創造にチャレンジするグローバルリーダーを育成します。



アジアでトップクラスにランキングされる教育・研究組織を目指す

先進的なアントレプレナーシップ関連教育を提供することにより、学生自らが「未来を創る」ことを重視し、九州大学から自立心、向上心、グローバル意識を有し、積極的に新しい価値創造*1にチャレンジする、世界に羽ばたくリーダー人材を輩出します。

*1:新しい価値創造とは、人文・社会科学、自然科学などの分野、もしくはそれらの融合分野において、イノベーションを生み出すことを指す。



世界を舞台に次代を担うグローバルリーダーを育成する

ベンチャー企業に限らず、大企業、アカデミア等を含む社会のあらゆる分野で、「新しいことを仕掛ける人」「社会を変えようとする人」を育成する広義のアントレプレナー人材の育成を目指します。



地域におけるアントレプレナーシップ醸成のハブを確立する

国や自治体、企業、国内外の大学とも連携し、多様な学びの場でプログラムを実施します。各大学・地域の特性を活かし、シナジーを創出するプログラムの展開を行っています。



活動内容

ACTIVITIES



QRECでは次の4点をベースに、それぞれが関連しあう取り組みを行っています。



教育

日本ではじめて
全学学生(学部/大学院)を対象とした
一貫的、体系的アントレプレナーシップ
教育を提供

MOT教育などを融合した広義のアントレ
プレナーシップ教育を展開。



社会連携

プラクティカル、産学連携

双方向参加型・体験型・実践的な教育を
実施するために、産業界と積極的に連携
し人材や教育の場の提供をしています。
九州大学の学生のみならず、専門分野の
垣根を越え、学外や地域社会のネット
ワークの構築も促します。



研究

現代ニーズへ対応したアントレプレナー
シップ研究・教育法の研究

新興国ビジネス、社会的起業等、現代の
多様かつ新たな動きに対応するべく、各
教員がそれぞれの専門分野をいかした研
究活動を行っています。



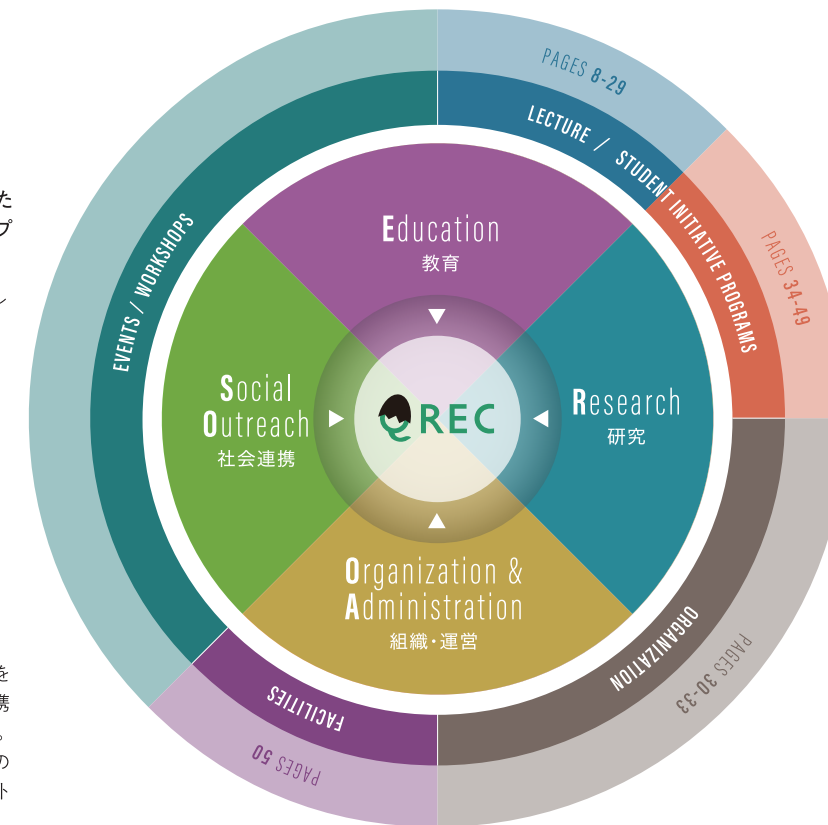
組織・運営

分野融合と多様性確保

学内各部局と相互連携した教育を企画・
実施します。

グローバル性の重視

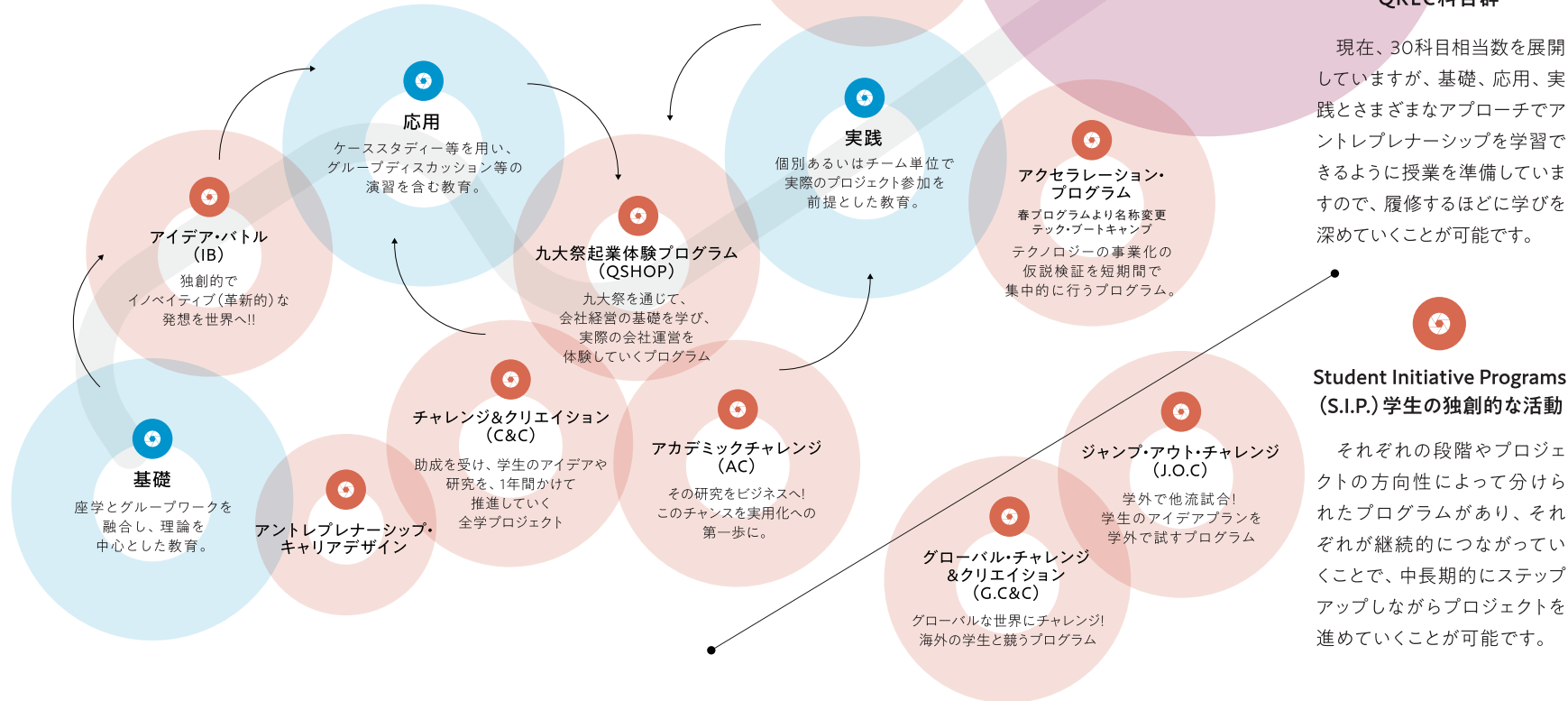
世界の主要大学等と連携し、国際的な
教育を実施します。





アントレプレナーシップを持って考え、行動すること

QRECが提供する教育プログラムは、学生が自らの意志で「行動」を始める段階までを教育の対象としています。QREC教育プログラムは、すべての九大生がアントレプレナーシップを持って考え、行動することを目的とし、そのために、[●QREC科目群]、[●S.I.P.学生の独創的な活動]という大きく2つのプログラムを提供しています。



(2026年3月現在)

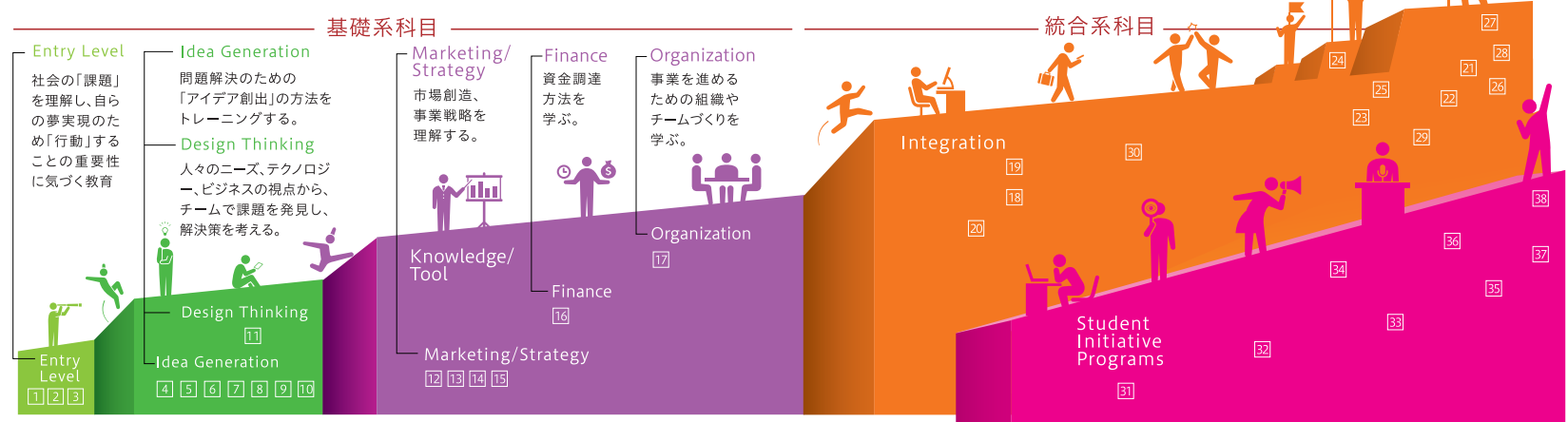


QREC科目の体系



QREC CURRICULUM SYSTEM

カリキュラムにある科目は、全学の学生が副専攻的な位置付けで履修できます。





FOCUS ON
2

LECTURE



● Motivation ● Knowledge/Tool ● Integration

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
春学期講義開講		夏学期講義開講				秋学期講義開講			冬学期講義開講		
● 価値創造演習(特論)		● ニュービジネス・クリエーション				● 起業価値評価(特論)			● リーンスタートアップ演習		
		● ビジネスにおける競争優位性(特論)				● 技術系アントレプレナーシップ(特論)			● コーポレート・アントレプレナーシップ(特論)		
		● グローバルPBLプログラム(9月渡航)				● Global Seminar(English)			● リーンスタートアップ演習		
		● Entrepreneurship Bootcamp(9月渡航)				● Advanced Lecture in Research Skills Development(English)(実用研究技能特論)			● Technology Marketing Game(English)		
● テクノロジー・マーケティング・ゲーム(春)		● テクノロジー・マーケティング・ゲーム(夏)				● アントレプレナーシップ・マーケティング			● Technology Marketing Game(English)		
		● ベンチャー・ファイナンス									
		● イノベーション・マネジメント									
		● アントレプレナーシップ・組織論									
		● デジタル工作入門				● デジタル工作応用			● ソーシャル・イノベーション入門		
● アイデアソン・ハッカソン演習		● アイデア・ラボ I				● アントレプレナーシップ入門(後期)			● ソーシャル・イノベーション入門		
		● 実践データサイエンス入門				● アントレプレナーシップ・キャリアデザイン					
● アントレプレナーシップ入門(前期)		● デザイン思考演習				● Entrepreneurial Intention			● キャリアのための自己探求学(後期)		
● キャリアのための自己探求学(前期)											

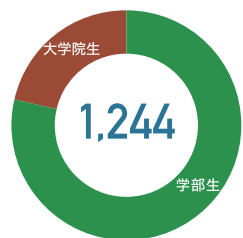




2025年度QREC履修者データ

COURSE DATA / NUMBER OF STUDENTS

2025年度
QREC科目
受講生数
1,270
名



学部・大学院生別比

学部生 979名
大学院生 265名



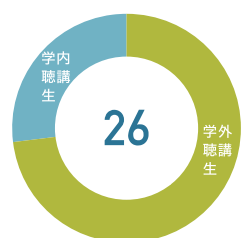
男女比

男性 810名
女性 434名



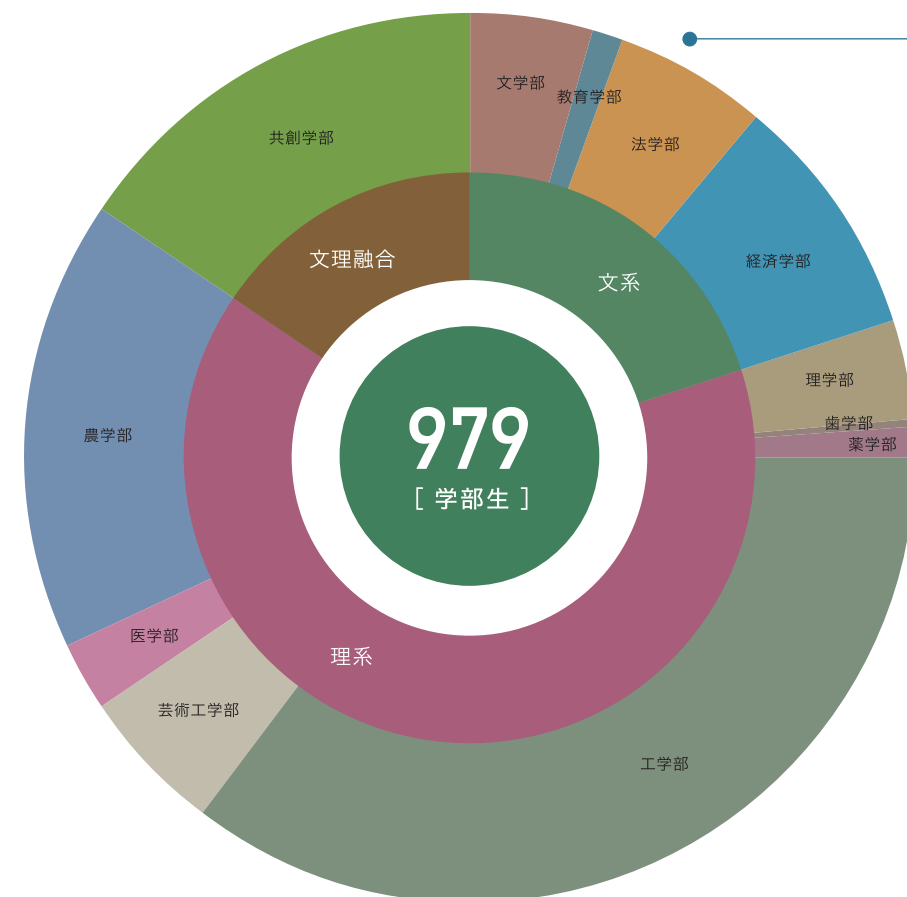
留学生比

日本人 1,148名
留学生 96名



聴講生比

学外聴講生 19名
学内聴講生 7名



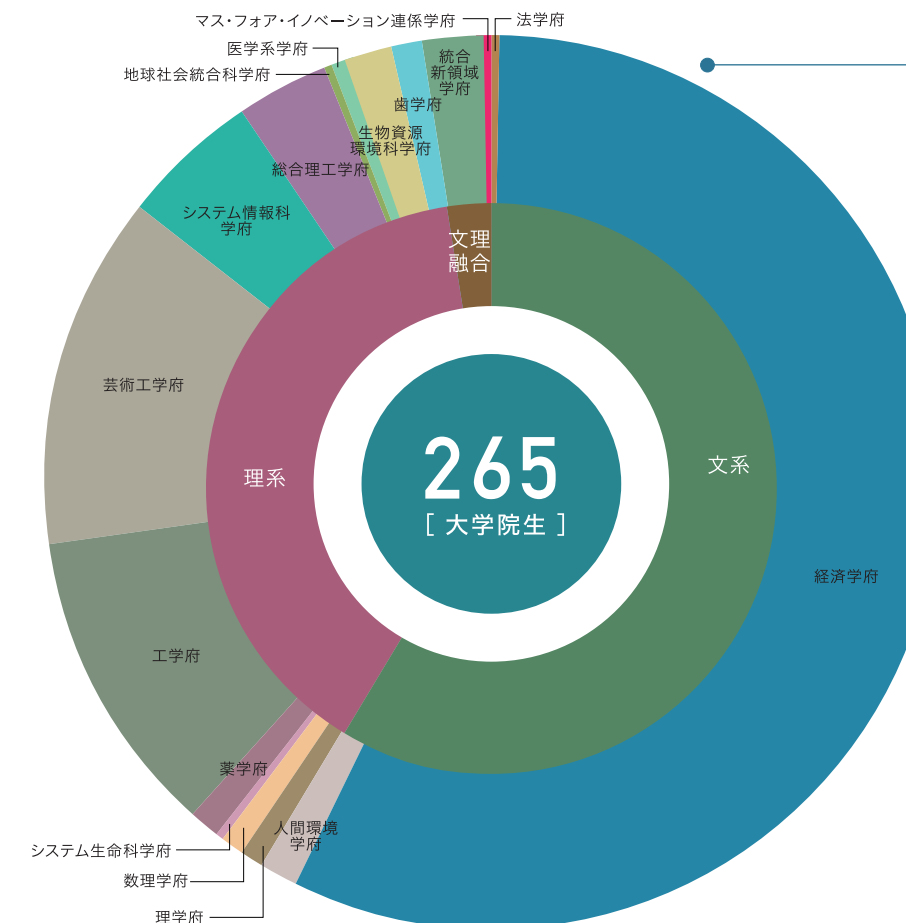
[学年別受講生数]

●1年生 / 423名 ●2年生 / 230名 ●3年生 / 213名 ●4年生 / 108名 ●5年生 / 1名 ●交換留学生 / 4名

履修生内訳 [学部生]

文系 198名
理系 630名
文理融合 151名

文学部 44名
教育学部 11名
法学部 56名
経済学部 87名
理学部 35名
歯学部 2名
薬学部 11名
工学部 345名
芸術工学部 52名
医学部 25名
農学部 160名
共創学部 151名



[学年別受講生数]

●修士1年生 / 122名 ●修士2年生 / 122名 ●博士1年生 / 4名 ●博士2年生 / 16名 ●博士3年生 / 1名

履修生内訳 [大学院生]

文系 156名
理系 103名
文理融合 6名

法学府 1名
経済学府 151名
人間環境学府 4名
理学府 2名
数理学府 2名
システム生命科学府 1名
薬学府 3名
工学府 29名
芸術工学府 34名
システム情報科学府 13名
総合理工学府 9名
地球社会統合科学府 1名
医学系学府 2名
生物資源環境科学府 4名
歯学府 3名
統合新領域学府 5名
マス・フォア・イノベーション連係学府 1名



アントレプレナーシップ入門

LECTURE HIGHLIGHTS 1

[教員]松井 克文 准教授／ネルグイ エンフザヤ 助教／株式会社 REAPRA



履修生数



文学部	1 名
教育学部	1 名
法学部	3 名
経済学部	14 名
理学部	10 名
薬学部	1 名
工学部	42 名
芸術工学部	1 名
農学部	64 名
共創学部	10 名

[学外聴講生 1 名]



文学部	4 名
教育学部	1 名
法学部	3 名
経済学部	8 名
理学部	2 名
工学部	14 名
芸術工学部	2 名
農学部	2 名
共創学部	9 名

この講義は、アントレプレナーシップ教育の出発点に位置付けられ、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学びます。2021年度から、外的世界、内的世界両方を掘り下げる形式に教育内容を改め、2025年度も、株式会社REAPRAの協力を得て実施しました。自分の内面を見つめ直すことで外界に対してどう働きかけたいのか、外界の変化を自分に対する刺激と捉えて、どう内面に取り込むのかを考えます。

- 前期 春学期 ▶ 開講日：水曜日 4・5 限 4/9、16、23、5/7、14、21、28、6/4
- 後期 秋学期 ▶ 開講日：水曜日 4・5 限 10/8、15、22、29、11/5、12、19、26

Motivation Entry Level / Idea Generation / Design Thinking



アイデア・ラボI / ソーシャル・イノベーション入門

LECTURE HIGHLIGHTS 2

[教員]原口 唯 客員准教授



履修生数



教育学部	1 名
法学部	2 名
経済学部	7 名
理学部	2 名
薬学部	1 名
工学部	18 名
芸術工学部	6 名
医学部	1 名
農学部	47 名
共創学部	5 名



法学部	1 名
経済学部	2 名
工学部	2 名
医学部	1 名
共創学部	9 名

アイデア・ラボIでは、受講生が課題の本質を捉えた上で、多様なアイデアを創出・検証する演習を行いました。デザイン思考による問題定義、生成AIを活用したベルソナ作成、バリュープロポジションの検討、エフェクチュエーション、MVP設計、プロトタイプング、仮説検証などを段階的に実施し、チームでアイデアを社会実装に向けた提案へと磨き上げました。初回ゲストには、つゆのひ代表／エグゼクティブコーチ 野口祐介氏をお招きし、個人の関心や違和感を起点にプロジェクトを立ち上げていく実践について学びました。

ソーシャル・イノベーション入門では、社会課題を多様な視点から捉え直し、より包摂的で実装可能なアイデアを構想するための基礎を講義とグループワークを通じて学びました。特に今年度は、ジェンダード・イノベーションの視点を取り入れ、研究・技術・事業開発において見落とされがちな偏りや当事者の視点について理解を深めました。初回授業にはBlend-Gendered Innovations Initiative 本田杏子氏をお招きしご講演いただき、最終回にはBlendリーダー／非営利株式会社ピロウ代表取締役 江連千佳氏に学生の発表に対して講評をいただきました。

- アイデア・ラボI 開講日：水曜日 4・5 限 6/11、18、25、7/2、9、16、23、30
- ソーシャル・イノベーション入門 開講日：水曜日 4・5 限 12/10、17、24、1/7、14、21、28、2/4



学生の所属・学年は2025年時点





アントレプレナーシップ・マーケティング

LECTURE HIGHLIGHTS 3

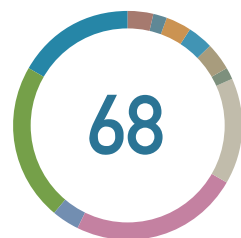
[教員]平野 健二 客員教授



本講義では、アントレプレナーとは「何を持っている/いない」「何が必要か」の定義に始まり、自らの商品やサービスの価値創造と伝達をその柱に据えました。次に「顧客は誰か」「その人にとっての価値は何か」のリサーチを、教室内の参加者を市場に見立ててリサーチし、ターゲット選定の後、伝達～購買に至る行動変容を起こすべく演習を行いました。能動的なグループを立ち上げるためのゲームや、リーダーシップ論、行動変容のためのプレゼンテーション論も包含しています。

●開講日：後期集中 11/16(日)、12/14(日)

履修生数



文学部	2名
教育学部	1名
法学部	2名
経済学部	2名
理学部	2名
工学部	1名
芸術工学部	8名
医学部	13名
農学部	2名
共創学部	12名
経済学府	9名

[学外聴講生14名]



ベンチャー・ファイナンス

LECTURE HIGHLIGHTS 4

[教員]北川 裕憲 客員准教授



本講義では、ベンチャーの立ち上げから上場(IPO)に至る成長過程におけるファイナンスの理論と実践を学びます。現在も上場ベンチャーのCFOとして第一線で活躍する実務家講師を迎え、リアルなケーススタディを豊富に交えた講義を展開しました。授業では、ファイナンスを実務で「使える」知識とするため、資本政策表の作成をはじめとする実践的なグループワークを重視。起業家、投資家、証券会社などの多角的な視点を養いながら、受講生同士で「なぜ？」を問い立て続け、不確実な未来の意思決定を支えるファイナンス的思考の習得を図りました。

[ゲスト講師] ●株式会社リンクソシール 代表取締役社長 白藤 大仁 氏 <https://www.link-ss.co.jp/vision/>
●株式会社ココビア 代表取締役社長 森島 聖 氏 <https://cocopia.jp/member>

●開講日：前期集中 6/7、14、21、28、7/5、12 開講場所：JR博多シティ

履修生数



経済学部	2名
工学部	2名
共創学部	4名
経済学府	13名
薬学府	1名

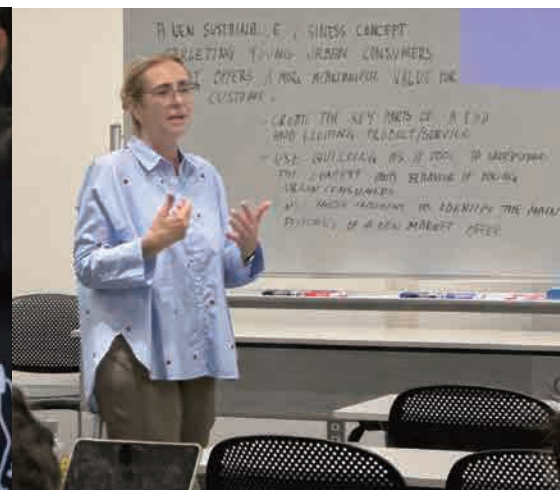




テクノロジー・マーケティング・ゲーム/ Technology Marketing Game(English)

LECTURE HIGHLIGHTS 5

[教員]金子 晃介 准教授／渡邊 由佳 助教／ネルグイ エンフザヤ 助教



世界屈指のMBAプログラム仏国INSEADで開発された経営シミュレーションゲーム「MarkStrat」を使用し、6人程度のチームに分かれた参加者が、ゲーム内で株価を競い合いました。

基礎的な経営学のフレームワークを学び、シミュレーション内で提示された市場データを読み解き、チーム内で議論して意思決定を行い、その過程を内省的に振り返るというプロセスを繰り返すことで、マーケティングだけでなく、ファイナンスや戦略など幅広い経営学の基礎知識、リーダーシップやチームワークなどのスキルを実践的に学びました。講義最終日には、ファイナルプレゼンテーションを行い、チームのパフォーマンスに対する評価を発表しました。

テクノロジー・マーケティング・ゲーム

※工学部提供科目「テクノロジー・マーケティング」

開講日：春学期 水曜日4・5限 4/9、16、23、5/7、14、21、28、6/4

開講日：夏学期 水曜日4・5限 6/11、18、25、7/2、9、16、23、30

Technology Marketing Game (English)

開講日：冬学期 水曜日4・5限

12/10、17、24、1/7、14、21、28、2/4

履修生数



文学部	1名	法学部	1名
法学部	2名	経済学部	2名
経済学部	3名	数理学部	1名
理学部	1名	システム情報科学府	4名
工学部	209名	芸術工学府	2名
農学部	1名	生物資源環境科学府	1名
共創学部	4名	統合新領域学府	1名



Global Seminar (English)

LECTURE HIGHLIGHTS 6

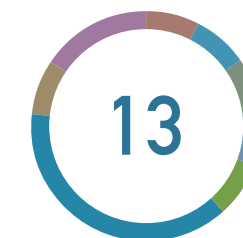
[教員]ネルグイ エンフザヤ 助教

アントレプレナーシップ領域の研究並びに教育で世界的に知られるスウェーデン・ルンド大学より、Diamanto Politis教授を招聘しました。Politis教授は、同大学の教授であり、Sten K. Johnson Centre for Entrepreneurshipのディレクターを務めています。

本講義では、アントレプレナーシップの概念や定義、グローバルな視点、起業プロセス、意思決定、アントレプレナーとしての成長プロセスについて学びました。理論的な知識と実践的な視点を結びつけながら、参加者は自己省察や相互学習を通じて、アントレプレナーシップへの理解を深めました。

●開講日：前期集中 9/22(月)、9/23(火) ●開講場所：JR博多シティ 10階 大会議室AB

履修生数



文学部	1名	経済学部	5名
経済学部	1名	理学部	1名
工学部	1名	総合理工学府	2名
農学部	1名		
共創学部	1名		

Knowledge / Tool Marketing / Strategy / Organization



学生の所属・学年は2025年時点





リーンスタートアップ演習 -デザイン・プロセス:デザイン思考+プロトタイピング-

LECTURE HIGHLIGHTS 7

[教員]松井 克文 准教授／稲村 徳州 助教



本講義では、デザイン思考の手法を活用し、アイデア創出からプロトタイピングまで、実現可能なビジネスモデル創出の手法を実践的に学ぶことを目的としています。2025年度のテーマは、「越境して交わる福岡の多様な文化:どのようにしたら、福岡市内の多様な文化・考え方・価値観が交わる場で、人々が必要とする新しいサービスをデザインすることができるだろうか?」で、元IDEO Tokyo松本氏、野々村氏によるデザイン思考の演習をはじめ、多くのゲスト講師にアドバイスをいただきました。

[ゲスト講師] ●Noun株式会社 代表取締役社長兼CEO 野々村 健一 氏 ●Noun株式会社 ディレクター 松本 哲郎 氏
●株式会社本郷制作局 代表取締役社長 城 啓介 氏

●開講日:後期集中 11/15、16、29、30、12/7、13、14、20

Integration



Advanced Lecture in Research Skills Development (English) (実用研究技能特論)

LECTURE HIGHLIGHTS 8

[教員] 原田 裕一 教授



今年度の受講者は17名、そのうち日本人は1名でした。大橋・馬出地区からの参加者も筑紫の教室にて受講されました。今年も、大学院研究の深化を図るために、講義以外に個別に指導した学生が3名ほどいました。特に、人文社会学系で、企業との接点を作りたいとの要望が多く、知己のある企業担当者との意見交換は役に立ったようでした。今年もアフリカからの学生から、環境と技術開発に関する悩ましい思いが述べられて、持続性のある社会について議論を深めました。

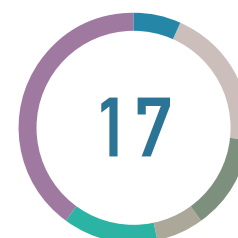
●開講日:金曜日4・5限 10/3、10、17、24、11/7、14、21、28

●履修生数



●文学部 1名 ●経済学部 1名
●理学部 2名 ●芸術工学府 4名
●工学部 1名 [学外聴講生1名]
●芸術工学部 2名
●共創学部 4名

●履修生数



●経済学部 1名 ●システム情報科学府 2名
●人間環境学部 3名 ●総合理工学府 6名
●工学部 2名 [学内聴講生2名]
●芸術工学府 1名





起業価値評価(特論)

LECTURE HIGHLIGHTS 9

[教員] 高田 仁 教授

本講義では、大学が保有する研究成果の商業化に必要な実践的知識やスキルを獲得するために、受講者が計5チームを形成し、MITで用いられる手法(24step)などを応用してテクノロジーのアセスメント～ビジネスアイデアの構想～市場参入戦略の立案を行いました。最終日にベンチャー・キャピタルなど学外の専門家にプレゼンテーションを行い、多様な観点からのフィードバックを得ました。



[ゲスト講師] 辻川 大 氏(株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ)、山口 泰久 氏(株式会社インターユニバーシティ・ベンチャーズ 代表取締役)、川太 規之 氏(QBキャピタル合同会社 インベストメントマネージャー)、松橋 俊彦 氏(Innovaise 代表)、大西 晋嗣 氏(九大OIP株式会社 代表取締役)

●開講日:後期隔週 土曜日4・5限 10/4、18、11/8、22、12/6、12/20、1/10、1/24



価値創造演習(特論)

LECTURE HIGHLIGHTS 10

[教員]高田 仁 教授/松井 克文 准教授/渡邊 由佳 助教

本講義では、三部局連携(QREC、QBS、芸術工学府)の枠組みで異なるバックグラウンドの履修者がチームを組成し、受講者の「こだわり」をもとに肩入れしたいユーザーのSOSを解決する未来社会を構想し、新しいデザイン&ビジネスを創造する演習を行いました。最終日には、外部専門家を招聘してプレゼンテーションを行い、活発なディスカッションを行いました。

[ゲスト講師] 熊村 剛輔 氏 株式会社セールスフォース・ジャパン 執行役員 ビジネス&ソリューションデザイン本部長

●開講日: 4/12、19、26、5/10、17、24、31、6/7、14、21、28、7/6、12、19、26、8/3

●履修生数

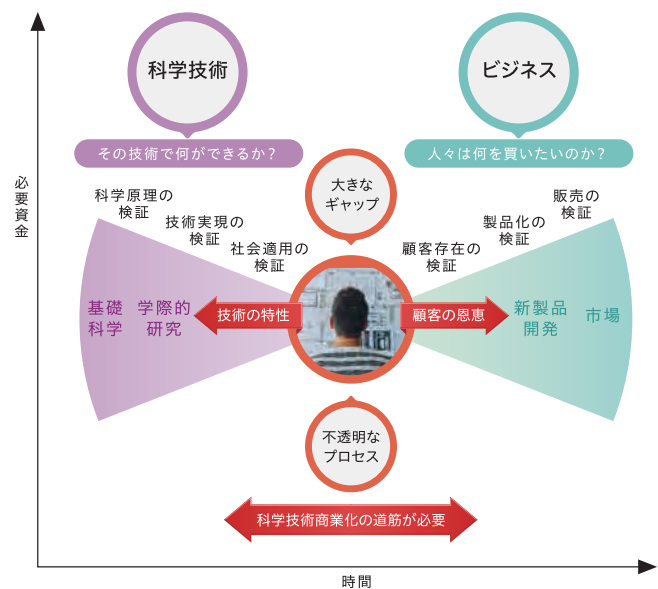


●経済学府 12 名
●工学府 1 名
●システム情報科学府 1 名
●医学系学府 1 名

●履修生数



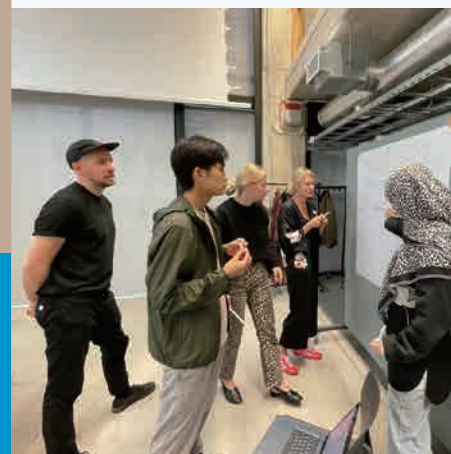
●経済学府 8 名
●芸術工学府 6 名



グローバルPBLプログラム

LECTURE HIGHLIGHTS 11

[教員] 張 彦芳 准教授/SARANTOU MELANIE 教授

STUDY ABROAD
海外で学ぶ

本プログラムは、九州大学大学院芸術工学研究院とエストニア芸術アカデミー(EKA)との国際連携により、デザイン思考およびデザインフィクションを活用したPBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)型の授業を通じて、国際的な課題解決能力・創造力・社会実装力を育成することを目的としています。特に、QRECとの協働により、教育・研究・社会実装の三位一体の仕組みを構築し、学生が多文化的背景を超えて共創する実践の場を提供しました。テーマは「Designing Connections(つながりをデザインする)」です。家族の形が変化し、孤独がグローバルな社会課題となりつつある未来において、人々のつながりの再構築をデザインの視点から問い直しました。実際の社会課題に向き合い、想像力を働かせて未来社会を構想し、プロトタイピングを通じてそれを社会に届けることで、実践知の育成と社会貢献の両立を目指しプログラムを実施しました。

●開講日:6/7、14、28、29、7/19、20、10/22～25、11/10 渡航:9/1～9/9

●履修生数



●工学部 1 名
●芸術工学部 2 名
●医学部 1 名
●農学部 2 名
●共創学部 3 名
●芸術工学府 4 名
●総合理工学府 1 名





STUDY
ABROAD
海外で学ぶ



Entrepreneurship Bootcamp

LECTURE HIGHLIGHTS 12

[教員]金子 晃介 准教授／渡邊 由佳 助教



本講義では、これまでQRECのプログラムなどを通じて、学生が取り組んできた活動を、資金的に持続可能な活動にしていくためには、どのようなビジネスモデルの可能性があるのかを考案しました。ビジネスモデルを考えるプロセスでは、顧客インタビューやピッチを通じて、フィードバックをもらいながら、ビジネスモデルをより解像度の高いものにしていきました。福岡とアメリカでの研修を実施し、福岡研修の最終日は、CIC FukuokaのThursday Gatheringで、福岡のスタートアップ関係者の前でピッチをし、ビジネスモデルのフィードバックをもらいました。アメリカ研修では、東海岸（ボストン）と西海岸（シリコンバレー）を訪れ、スタートアップ関係者と交流しながら、より質の高いビジネスモデルを考案していきました。ボストンでは、バブソン大学、ハーバード・ビジネス・スクール、マサチューセッツ工科大学などのスタートアップに関連する大学を訪れたり、CIC Cambridgeでスタートアップ関係者との交流を行いました。シリコンバレーでは、Intel、Google、Appleなどシリコンバレーを代表する企業を訪れたほか、スタンフォード大学でのピッチや、Japan Innovation Campusでのスタートアップ関係者との交流を行いました。

●開講日：7/30、8/25、26、27、28 渡航：9/2～9/10

履修生数



● 経済学部	1 名
● 農学部	1 名
● 共創学部	2 名
● システム情報科学府	2 名
● マス・フォア・イノベーション連係学府	1 名

[学内聴講生 1 名]

Integration



STUDY
ABROAD
海外で学ぶ



Venture Life Challenge 2025

LECTURE HIGHLIGHTS 13

[教員]ネルグイ エンフザヤ 助教



国内
プログラム

2025年度は、国内の他大学の学生に加え、CSE*の学生10人も参加しました。国籍、大学、専攻等が異なる様々な知識と経験を有した多様な学生たちがチームを作り、企業より提示された経営の根幹に関する課題解決に挑戦しました。正解のない問いに向き合い、様々な真実の断片を拾い集め、試行錯誤を通じて解決策を紡ぎ出していくプロセスを経験的に学ぶことがこのプログラムの狙いです。

※本プログラムは、「QRECインターンシップ」として単位を取得できます。

●スケジュール

8月18日(月)：キックオフイベント 8月19日(火)～29日(金)：各企業で課題への取組
8月23日(土)：エクスカージョン 8月24日(日)：チーム活動 8月30日(土)：最終発表会

受入れ企業

●株式会社Fusic ●株式会社ヌーラボ ●ONE SWORD株式会社 ●パナソニック エンターテインメント&コミュニケーション株式会社 ●株式会社ペンシル
●パーソルテンプスタッフ株式会社 ●PwCコンサルティング合同会社 ●株式会社リクルート ●チームラボ株式会社 ●その他教育機関向けにCRMを提供する企業

海外
プログラム

CSEの入学直後のプログラム“Startup-Challenge”に九州大学の学生も参加しました。新入生45名程度の中に、九大生が加わり約10チームで、200スウェーデン・クロネ(≒3,200円)を原資に、週末を含む1週間でどこまで売上、利益を獲得できるかに挑みました。このプログラムは、時間制限のプレッシャーの中で、十分に考える時間もなく即座に意思決定し、行動に移し、結果を見て再考するサイクルを回していくことが求められます。最後に全体を振り返り俯瞰することで、自分たちが何を学べたのかを思い出す経験学習に則ったプログラムです。

●スケジュール

6月17日(火)：事前研修 9月4日(木)～11日(木)：スウェーデン研修

*CSE：チャルマース工科大学(ヨーテボリ/スウェーデン)の技術系起業家養成の修士課程Chalmers of School of Entrepreneurship





Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS_パークス)

START(大学・エコシステム推進型)

大学発新産業創出プログラム(START)は、大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援にて採択されました。QRECは『アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等』を中心に取り組みました。

国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)による「大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援」の採択を受け、オール九州・沖縄圏一体でアジアとつながるスタートアップ・エコシステムを創出することを目指し、Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS_パークス)を設立しました。九州大学は、九州工業大学とともに主幹機関として推進いたします。



主幹機関:九州大学、九州工業大学

共同機関:佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学、北九州市立大学、九州産業大学、久留米大学、山口大学、立命館アジア太平洋大学、沖縄科学技術大学院大学、第一薬科大学、福岡工業大学、福岡大学、長崎総合科学大学、九州歯科大学、株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ(FVP)、九大OIP株式会社

(2025年度時点)

幹事自治体:福岡市、北九州市

◎目指す姿

PARKSの起業活動支援プログラムでは、令和8年度末までに155社の起業を目指します。

また、アントレプレナーシップ人材育成プログラムでは、令和8年度末までにPARKSに参画する全ての大学でアントレプレナーシップ教育の実施を目指します。加えて、令和8年度末までにPARKS参画大学全体で年間12,000人のアントレプレナーシップ教育の受講者数を目指します。

◎事業概要

PARKSは、アジアへの窓口である九州・沖縄圏という地域にあるべき、かつ顧客志向で業界改変を実現可能な大学発スタートアップを持続的に創出していくことを目的とし設立されたプラットフォームです。スタートアップ・エコシステム拠点都市に選定されている福岡市、北九州市をモデル都市に、さらに九州・大学発ベンチャー振興会議との密な連携のもと、アントレプレナーシップ教育から起業支援までを一気通貫で実施し、2026年度末までに、PARKSインターユニバーシティ設立を目指し活動していきます。

PARKSは以下の4つを柱にスタートアップ・エコシステムの創出を進めます。

(1) 起業活動支援プログラムの運営

・スタートアップ創出に資する技術シーズの発掘から、起業家とのマッチングによる創業までをシームレスにつなげるための4ステップの起業活動支援プログラムを提供します。
・各大学から継続的に、スタートアップ創出を実現するための支援人材の教育・整備を進めます。

(2) アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等

・九州・沖縄圏域のアントレプレナーシップ教育に関わる教員の育成を目的に、PARKS参画大学でアントレプレナーシップ教育者のネットワークを構築し、アントレプレナーシップ教育に関わる知見やノウハウの情報共有を行います。また、先進的な国内・国外の組織と連携してFaculty Developmentを実施し、九州・沖縄圏域においてアントレプレナーシップ教育を実施できる教員を育成します。

・学生を対象としたアントレプレナーシップ教育として、アーカイブシステムを利用した動機付け・意識醸成を行う教育を提供します。また、アントレプレナーシップのコンピテンシーの形成を目的とした教育として、各大学の特色を活かしたPBL等を通じた社会実装教育を実施します。

(3) 起業環境の整備

・本プラットフォーム内で①各大学の取組をつなぐPARKSアーカイブシステムの運用、②起業環境諸ルールのフォーマット化、③各拠点の起業環境をICTツールによるネットワーク化によりオール九州・沖縄圏でスタートアップ・エコシステムを創出するための環境を整備していきます。

(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展

・福岡市・北九州市の両スタートアップ・エコシステム拠点都市をモデル都市として、PARKS全体にスキル・ノウハウを展開します。
・アジアのVCとも連携し、アジア展開も見据えた起業支援を実施していきます。



PARKS 海外派遣プログラム

PARKS参画大学の学生を海外へ派遣し、現地のスタートアップ関係者や現地の大学生と共にワークショップ等を行いながら、アントレプレナーシップのマインドセットや行動様式を身につけてもらうための研修を実施しました。

参加学生

- ◎シンガポール:11名
- ◎シンガポール博士課程プログラム:5名
- ◎韓国:13名
- ◎台湾:10名

スケジュール

シンガポール

2026年2月26日(木)～3月4日(水) ※移動日含む

世界有数のスタートアップエコシステムを有するシンガポールを訪問し、現地のスタートアップ関係者との交流を通じて、グローバルなスタートアップの現場への理解を深めた。また、アクセラレーター「リアクタースクール」によるワークショップでは、ビジネスプランの構築に必要な実践的な思考法や知見を学んだ。

博士課程(長期)シンガポールプログラム:

2026年2月22日(日)～3月15日(日) ※移動日含む

約3週間にわたりシンガポールに滞在し、現地のスタートアップエコシステムを実践的に体験した。NUS Enterpriseによるワークショップやスタートアップ関係者との交流を通じて、スタートアップの事業化に必要な視点やビジネスプラン構築に関する知見を深めた。

2026年3月8日(日)～3月11日(水) ※移動日含む

韓国のスタートアップエコシステムを訪問し、現地のスタートアップ関係者との交流を通じて、スタートアップの現場やエコシステムへの理解を深めた。

2026年3月8日(日)～3月12日(木) ※移動日含む

台湾の学生との共同ワークショップを通じて、国際的なチームでスタートアップ事業アイデアを創出・ブラッシュアップした。現地起業家からの評価を受けながら事業化に向けた検討を重ね、国境を越えたチームで事業を推進するために必要な視点やスキルを実践的に身につけた。





研究プロジェクト

九州大学ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター（QREC）では、諸藤周平氏からのご寄附により、アントレプレナーシップ教育の基礎となる起業意思－行動の間の接続及び教授法やクラス運営を含む教育そのものとの関連性に関する7年間の研究プロジェクトを立ち上げました。

プロジェクトの立ち上げと並行して今後、アントレプレナーシップ教育に関する研究誌発刊と国際シンポジウムを毎年実施する方向で計画中です。



このプロジェクトは、アントレプレナーシップ教育が起業意思と行動に与える影響を調査することに焦点を当てており、特に効果的な教授法とフィードバックに重点を置いてアントレプレナーシップ教育プログラムを向上させることを目指しています。このプロジェクトの一環として、「起業意思」研究で世界的な権威であり、研究論文の引用件数が極めて多く、公職を歴任されているノリス・F・クルーガー博士に主要メンバーとして参加頂いています。

🔍 このプロジェクトでは、以下の研究を実施する予定です

メインリサーチ

01

起業意思に関する研究

研究チーム ●ノリス・F・クルーガー博士
●ガビ・A・カフカ博士
●ネルグイ エンフザヤ 助教

焦点分野 学生の起業意思、メタ認知

アントレプレナーシップ教育が学生の起業意思やメタ認知-metacognition（自分の思考について考えること）の発達にどのような影響を与えるかを理解することに焦点を当てています。また、教育と学生の起業に対するマインドセットの関係を探ることを目的としています。

02

アントレプレナーシップ教育における生成AI活用の現状と課題に関する研究

研究チーム ●松井 克文 准教授

焦点分野 生成AI活用の現状と課題

アントレプレナーシップ教育と生成AIの交差領域に関する既存研究を整理し、主な研究テーマ、教育実践への示唆、今後の研究課題を明らかにすることです。

具体的には、2022年から2025年に発表された6件の文献を対象に、主要テーマ、教育実践への示唆、将来の研究課題の3つの観点から分析します。

サブリサーチ

03

プロセスの研究

研究チーム

●當眞 千賀子 教授
●ネルグイ エンフザヤ 助教

焦点分野

学習プロセス、観察研究

アントレプレナーシップ教育への介入によって生じる変化の根本的な理由を探ることを目的としています。

アントレプレナーシップ教育が、学生の態度、信念、行動に影響を与える、メカニズムやプロセスの特定を目的としています。

04

行動に関する研究

研究チーム

●高田 仁 教授
●渡邊 由佳 助教

焦点分野

卒業生の活動をフォローアップする、縦断的研究

アントレプレナーシップ教育の効果が学生時代を超えて行動に影響を与えるかどうかを調査することに焦点を当てています。

卒業生の活動をフォローアップすることで、アントレプレナーシップに基づく行動に与える長期的な影響を評価し、最も大きな影響力を持つプログラムの種類を特定することを目的としています。

05

チームに関する研究

研究チーム

●金子 晃介 准教授

焦点分野

チーム行動

個人の行動ではなく、新規事業創出プロセスにおけるチームの行動を調査することに重点を置いています。

この研究の目的は、チームがどのように協力し、意思決定を行い、新しいベンチャーを始める際に関連する課題をどう乗り越えるかを理解することを目指しています。

06

アントレプレナーシップ教育後における起業意思の安定性に関する研究

研究チーム

●松井 克文 准教授
●ネルグイ エンフザヤ 助教

焦点分野

学生の起業意思の安定性

アントレプレナーシップ教育の修了後に高まった起業意思が、6か月後も維持されるのかを明らかにすることを目的とします。

具体的には、介入群と統制群を比較し、事前・事後・6か月後の3時点データを用いて、アントレプレナーシップ教育が起業意思に与える効果の持続性を検証します。また、修了後6か月間に行われた起業行動が、起業意思の維持にどのように関係しているのかについても検討します。

07

アントレプレナーシップエコシステムに関する研究

研究チーム

●渡邊 由佳 助教

焦点分野

アントレプレナーシップエコシステム

東アジアにおける大学主導型ハイテク・アントレプレナーシップ・エコシステムを対象に、地域イノベーション・システムにおける大学の役割を明らかにすることです。

特に、福岡と新竹（台湾）を比較することで、大学がエコシステムをどのように形成し、関係者を調整し、地域内での正当性を高めているのかを検討します。

第3回 アントレプレナーシップ 教育に関する 国際シンポジウムinアジア

本シンポジウムは、アジアにおけるアントレプレナーシップ教育と研究の発展を目指し開催しました。近年、世界中でアントレプレナーシップ教育が急速に増加していますが、アントレプレナーシップ教育における国際的なシンポジウムの開催は、アメリカやヨーロッパが中心で、アジアでの事例は多くありません。

本シンポジウムを通じて、世界中からアントレプレナーシップに関する研究者がアジアに集い議論を共にする機会を創出することで、アジアにおけるアントレプレナーシップ教育がどのように進化しているかを探り、将来に向けた重要な課題を特定することを目的としています。

さらに、世界中の研究者や教育者とのネットワーク形成を促進し、将来的な協力関係を確立するためのプラットフォームとして機能することも目的としています。これにより、アントレプレナーシップ教育における主要な課題と進歩についての経験を共有し、アジアにおけるアントレプレナーシップ研究・教育の更なる発展を目指します。

- 🌀 **テーマ** 未来をデザインする：アントレプレナーシップ教育のイノベーション・潮流・倫理
- 🌀 **開催概要** 日 時：2025年9月20日(土) 10:00～18:00 会 場：九州大学医学部 百年講堂
- 🌀 **スケジュール**

午前セッション

メインホール

【開会挨拶】 Prof. Megumi Takata, Director of QREC
 【基調講演1】 トピック: CHARTING THE COURSE: THE EVOLUTION AND FUTURE CHALLENGES OF ENTREPRENEURSHIP EDUCATION AS A SCHOLARLY FIELD
 スピーカー: Dr. Diamanto Politis, Director, Sten K. Johnson Centre for Entrepreneurship; Professor in Business Administration, Lund University

メインホール

セッション1

テーマ: **Innovative Pedagogies and Inclusive Practices in EE**
 進行役: Dr. Andrew Penaluna
 メンバー:
 ・Dr. Diamanto Politis
 ・Prof. Megumi Takata
 ・Dr. Katsufumi Matsui

【プレゼンテーション1】

FROM OUTSIDERS TO INSIDERS: EMPOWERING UNIVERSITY EDUCATORS ACROSS DISCIPLINES THROUGH ENTREPRENEURSHIP EDUCATION
 発表者: Dr. Fufen Jin, Norwegian University of Science and Technology

【プレゼンテーション2】

ADVANCING SDGS IN ENTREPRENEURSHIP EDUCATION: THE ROLE OF EXPERIENTIAL LEARNING PEDAGOGY IN PROMOTING SUSTAINABILITY LITERACY
 発表者: Mr. Hsuan Peng, National Yang Ming Chiao Tung University
 ・Mr. Zi Heng Lim, National Yang Ming Chiao Tung University

【プレゼンテーション3】

DEMOCRATIZING ENTREPRENEURIAL LEARNING FOR AGRIENTREPRENEURS IN AFRICA: THE EMERGENCE OF YOUTOUBERS AS ENTREPRENEURSHIP EDUCATORS
 発表者: Ms. Aretha Afari Amoah, Ritsumeikan Asia Pacific University

中ホール3

セッション2

テーマ: **Holistic Approaches to Entrepreneurial Mindset Development**
 進行役: Dr. Foo Maw Der
 メンバー:
 ・Dr. Gabi Kaffka
 ・Dr. Kosuke Kaneko
 ・Assistant Prof. Yuka Watanabe

【プレゼンテーション1】

INTEGRATING RELIGIOUS VALUES INTO ENTREPRENEURSHIP EDUCATION: A CASE STUDY OF ISLAMIC BOARDING SCHOOLS IN INDONESIA
 発表者: Mr. Aris Kusumo Diantoro, National Yang-Ming Chiao Tung University

【プレゼンテーション2】

ANALYSIS OF FLOW EXPERIENCE AND HEART RATE MEASURED IN THE STARTUP WEEKEND PROGRAM
 発表者: Dr. Noriko Taji, Hosei University

【プレゼンテーション3】

ENHANCING ENTREPRENEURIAL SUSTAINABILITY MINDSET THROUGH SDGS-INTEGRATED COMPETITION-BASED LEARNING: A MIXED-METHODS STUDY ON CURRICULUM AND ENVIRONMENTAL DESIGN
 発表者: Ms. Tsai Yu Cheng, National Yang-Ming Chiao Tung University



午後セッション

メインホール

【基調講演2】

トピック: SHAPING THE FUTURE: EMERGING TRENDS IN ENTREPRENEURSHIP EDUCATION
 スピーカー: Dr. Foo Maw Der, President's Chair Professor in Entrepreneurship, Nanyang Technological University

メインホール

セッション3

テーマ: **Optimizing Entrepreneurial Learning**
 進行役: Dr. Norris Krueger
 メンバー:
 ・Dr. Andrew Penaluna
 ・Dr. Diamanto Politis
 ・Assistant Prof. Yuka Watanabe

【プレゼンテーション4】

OVERCOMING THE DIFFICULTIES IN LEARNING/TEACHING ENTREPRENEURIAL APPROACHES BY GENERATING DIALOGIC INSTRUCTIONAL METHODS ON THE SPOT DURING THE ONGOING LESSONS THROUGH "FORMATIVE FIELDWORK" APPROACH
 発表者: Dr. Chikako Toma, Kyushu University

【プレゼンテーション5】

DUAL-COURSE ENTREPRENEURSHIP EDUCATION: VENTURE PLANNING AND DECISION-MAKING THROUGH SIMULATION
 発表者: Mr. Yu-Wei Hsu, National Tsing Hua University

メインホール

【基調講演3】

トピック: AN INSIDER PERSPECTIVE: DESIGNING FRAMEWORKS FOR QUALITY-LED ENTREPRENEURIAL EDUCATION IN THE UK AND EUROPE.
 スピーカー: Dr. Andrew Penaluna, Emeritus Professor, University of Wales Trinity Saint David; Director of the National Centre for Entrepreneurship in Education

【閉会挨拶】

スピーカー: Dr. Norris Krueger, Visiting Research Fellow of QREC

中ホール3

セッション4

テーマ: **Entrepreneurship Education: Regional Challenges and Opportunities**
 進行役: Dr. Gabi Kaffka
 メンバー:
 ・Prof. Megumi Takata
 ・Dr. Kosuke Kaneko
 ・Dr. Foo Maw Der

【プレゼンテーション4】

EMERGING MINDS IN AN AI AGE: HOW UNIVERSITY STUDENTS ENVISION THE FUTURE OF ENTREPRENEURSHIP LEARNING AND ACTION
 発表者: Dr. Forhad Hossain, Sophia University

【プレゼンテーション5】

CIVIC FUTURES THROUGH ENTREPRENEURSHIP EDUCATION: GENERATIVE AI FOR INCLUSIVE COMMUNITY ENGAGEMENT AND CO-CREATION
 発表者: Mr. Rintaro Chujo, The University of Tokyo

【パネルディスカッション】

Shaping the Future of Entrepreneurship Education: Ethical Challenges and Innovations in a Global Context
 ・Dr. Diamanto Politis, Director / Sten K. Johnson Centre for Entrepreneurship; Professor in Business Administration, Lund University
 ・Dr. Foo Maw Der / President's Chair Professor in Entrepreneurship, Nanyang Technological University
 ・Dr. Andrew Penaluna / Emeritus Professor, University of Wales Trinity Saint David; Director of the National Centre for Entrepreneurship in Education
 ・Dr. Kathryn Penaluna / Professor of University of Wales Trinity Saint David
 コーディネーター: Mr. Kosuke Kaneko / Associate Professor of QREC

【閉会挨拶】

Greetings from Mr. Kosuke Kaneko, Associate Professor, QREC

Faculty Development(FD)Program開催

テーマ: **Thinking like an Expert Designer** – Beyond Design Thinking
 日時: 2025年9月21日(日) 会場: 九州大学医学部 百年講堂

【基調講演】

Prof. Andy Penaluna
 Professor Emeritus – University of Wales Trinity Saint David
 Director – National Centre for Entrepreneurship in Education
 Innovation Advisor – National Academy for Educational Leadership Associate – Advance HE Holder of the Queens Award for Enterprise





QRECコア教員

ORGANIZATION 1

ORGANIZATION



教授
高田 仁

ロバート・ファン／
アントレプレナーシップ・センター
センター長
経済学研究院 産業マネジメント部門
●専門分野
産学連携マネジメント、技術経営(MOT)、
アントレプレナーシップ
[担当科目]
ビジネスにおける競争優位性(特論)／
価値創造演習(特論)／
起業価値評価(特論)



教授
原田 裕一

学術研究・産学官連携本部
産学官連携推進グループ
●専門分野
ナノサイエンス、ナノテクノロジー、
イノベーション教育、
オープンイノベーション、
グローバル産学連携
[担当科目]
実践データサイエンス入門／
イノベーション・マネジメント／
Advanced Lecture in
Research Skills Development
(English)(実用研究技能特論)



准教授
金子 晃介

学術研究・産学官連携本部
知財・ベンチャー創出グループ
●専門分野
情報科学、教育工学
[担当科目]
キャリアのための自己探求学／
デジタル工作入門／
デジタル工作応用／
アイデアソン・ハッカソン演習／
テクノロジー・マーケティング・ゲーム／
Entrepreneurship Bootcamp



准教授
松井 克文

ロバート・ファン／
アントレプレナーシップ・センター
●専門分野
アントレプレナーシップ教育、
ヒューマンコンピュータインタラクション
[担当科目]
アントレプレナーシップ入門／
リンススタートアップ演習／
技術系アントレプレナーシップ(特論)／
価値創造演習(特論)



助教
渡邊 由佳

ロバート・ファン／
アントレプレナーシップ・センター
●専門分野
アントレプレナーシップ
[担当科目]
アントレプレナーシップ・キャリアデザイン／
テクノロジー・マーケティング・ゲーム／
Entrepreneurship Bootcamp／
価値創造演習(特論)



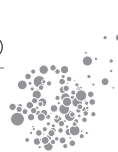
助教
ネルグイ エンフザヤ

ロバート・ファン／
アントレプレナーシップ・センター
●専門分野
アントレプレナーシップ
[担当科目]
アントレプレナーシップ入門／
Entrepreneurial Intention／
Technology Marketing Game (English)／
QRECインターンシップ／
Global Seminar(English)



助教
羽山 康之

芸術工学研究院
ストラテジックデザイン部門
●専門分野
経営学、デザイン学
[担当科目]
デザイン思考演習





QREC講師陣(非常勤)

ORGANIZATION 3

ORGANIZATION



教授 黒木 正樹

立命館大学 経営学部経営学科
[担当科目]
アントレプレナーシップ・組織論



客員准教授 原口 唯

株式会社YOUI 代表取締役
[担当科目]
アイデア・ラボ I /
ソーシャル・イノベーション入門



客員教授 平野 健二

株式会社サンキュードラッグ 代表取締役社長
Segment of One & Only 株式会社 代表取締役
[担当科目]
アントレプレナーシップ・マーケティング



平田 一茂

株式会社ジコウ 代表取締役
[担当科目]
キャリアのための自己探求学



客員教授 杉本 将隆

株式会社電通コンサルティング
専務執行役員 シニアパートナー
[担当科目]
ニュービジネス・クリエーション/
コーポレート・アントレプレナーシップ(特論)



客員准教授 北川 裕憲

スローガン株式会社 取締役副社長
公認会計士・税理士
[担当科目]
ベンチャー・ファイナンス

(2026年3月現在)



2025年度QREC外部アドバイザー会議委員

ORGANIZATION 4

ロバート・ファン 博士 (Dr.Robert T.Huang) シネックス・コーポレーション創業者、前会長 九州大学 名誉博士	石丸 修平 氏 福岡地域戦略推進協議会 事務局長
リチャード・B・ダッシャー 博士 (Dr. Richard B. Dasher) スタンフォード大学 教授 アジア・米国技術経営研究センター 所長	山田 仁一郎 氏 京都大学経営管理部・教育部 教授
徳田 和嘉子 氏 J. フロント リライジング株式会社 執行役 経営戦略統括部グループ事業開発部長	梅澤 高明 氏 CIC Japan 会長 A.T.カーニーニューヨーク・ オフィス・日本法人会長
鍵本 忠尚 氏 株式会社ヘリオス 代表執行役社長CEO	山川 恭弘 氏 バプソン大学 アントレプレナーシップ准教授
諸藤 周平 氏 REAPRAグループ Founder & CEO	



2025年度QREC運営委員会委員

ORGANIZATION 5

高田 仁 QRECセンター長／教授 (経済学府産業マネジメント専攻教授)	須藤 信行 医学系学府 学府長
竹熊 尚夫 人間環境学研究院 院長	野瀬 健 基幹教育院 院長
山本 元司 工学府 学府長	大西 晋嗣 学術研究・産学官連携本部 本部長補佐
田上 健一 芸術工学府 学府長	小城 武彦 経済学府産業マネジメント 専攻長
横尾 真 システム情報科学府 研究院長	

(2026年3月現在)





S.I.P. 学生の
独創的活動支援・統計

STUDENT
INITIATIVE
PROGRAMS



S.I.P. Student Initiative Programs

QRECでは、単位取得可能な授業とは別に、もう一つの柱として、学生の皆さんに実践の場を提供するプログラムを展開しています。

学部や専攻、個人・グループ等に関わりなく、九大生に広くプロジェクトを公募し、採択されれば、QRECの支援の下で、自らのアイデアや計画の実現に向けて活動していくことができます。

- 九創会
- アクセラレーション・プログラム
※春プログラムより名称変更「テック・ブートキャンプ」
- チャレンジ&クリエイション(C&C)
- 九大祭起業体験プログラム(QSHOP)
- アントレプレナーシップ・キャリアデザイン
- アイデア・バトル(IB)
- アカデミックチャレンジ(AC)
- グローバル・チャレンジ&クリエイション(G.C&C)
- ジャンプ・アウト・チャレンジ(J.O.C)

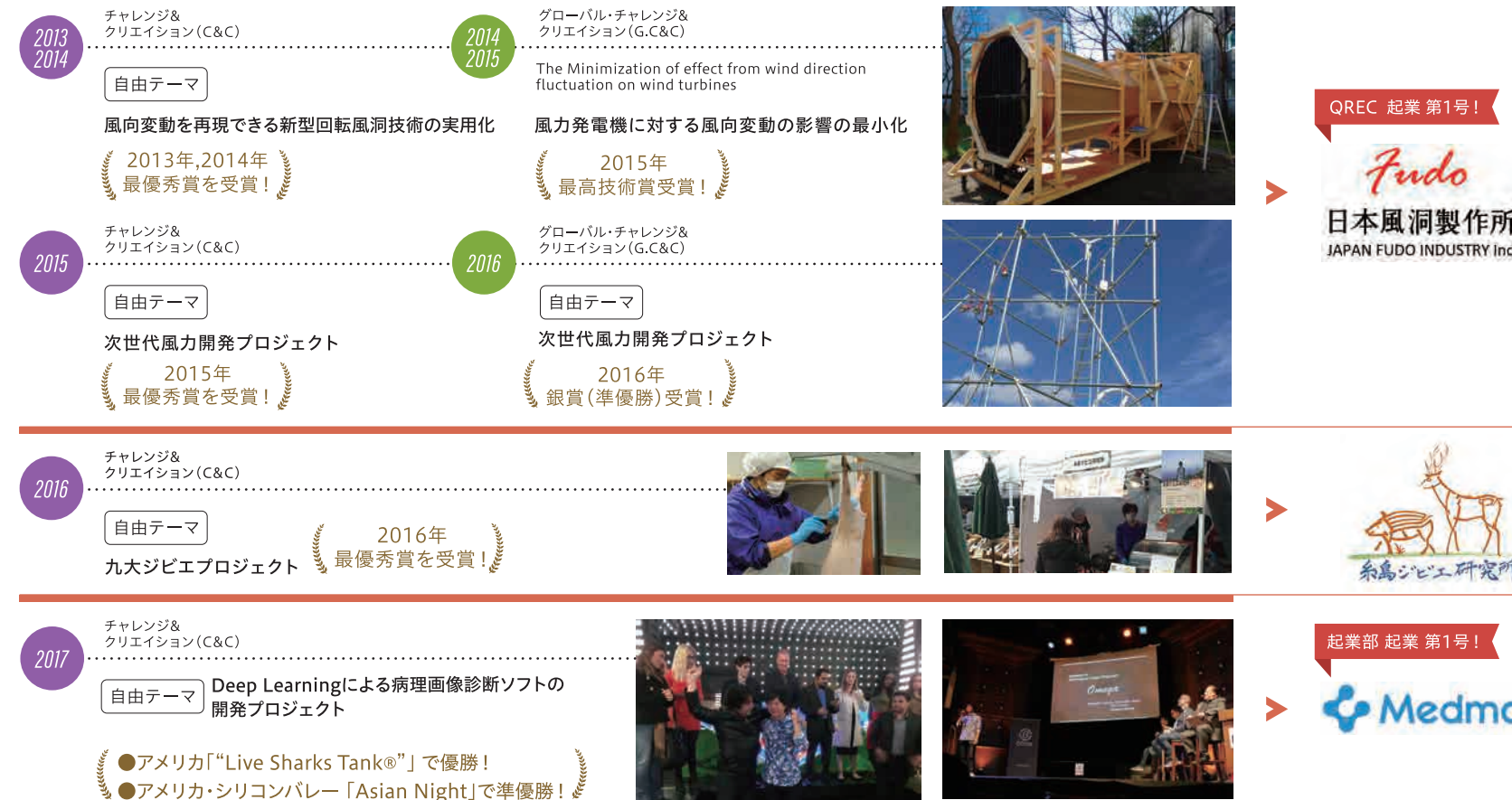


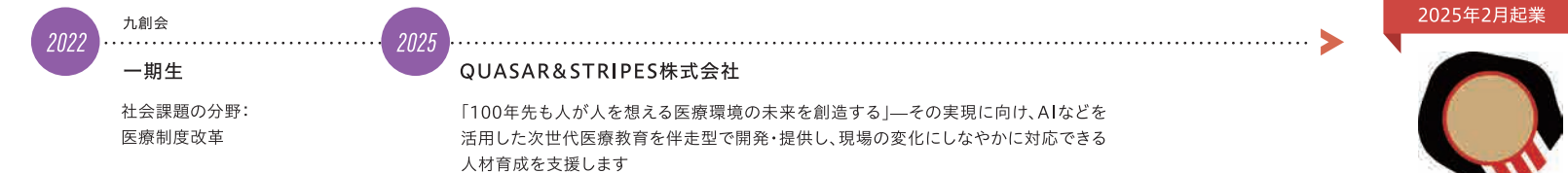
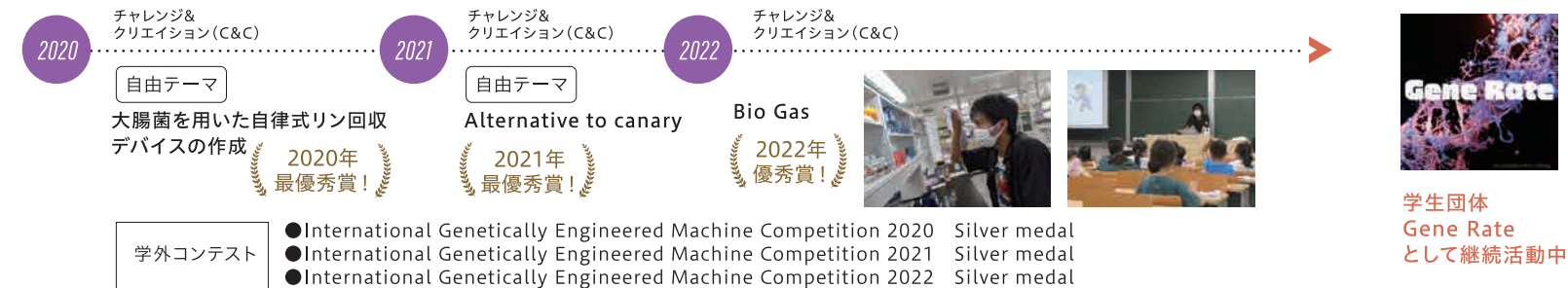
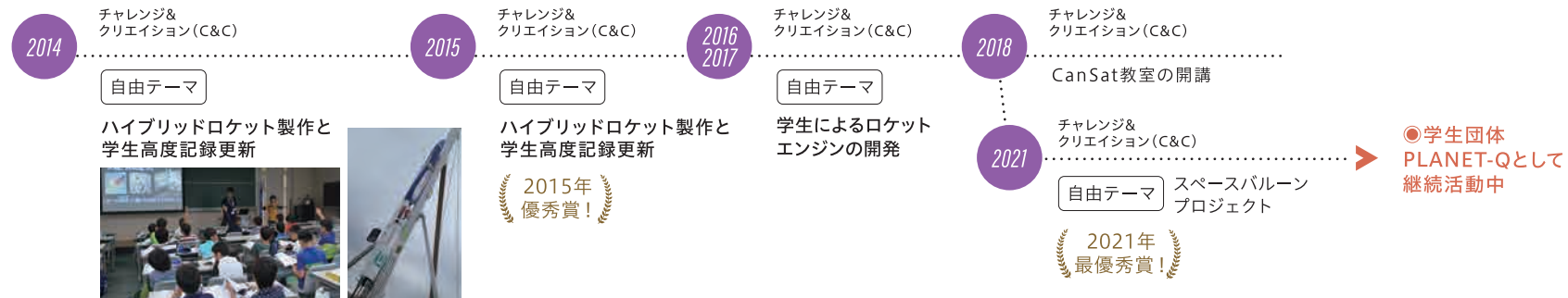
学生の独創的活動支援・実績

STUDENT INITIATIVE PROGRAMS

各プロジェクトは、QRECが提供するプログラムに段階を追ってチャレンジすることで、格段にレベルアップし、受賞や起業へと繋がっています！

[国際技術コンテスト「TECO Green Tech Contest」に参加]





■株式会社イマーゴ 執行役員 iQ Lab 共同代表



■テレポート株式会社 取締役 Co-Founder

スケールアップに向けた課題認識

2023

九創会

二期生

社会課題の分野：
学費の実質無料化プロジェクト

- 社会実装に向けた仕込みが完了し、現在は運用フェーズへ
- 次のテーマとして、生成AIスタートアップに着手

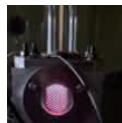
2023 QRECアクセラレーション・プログラム
パイロット版盆栽特化型のエレガントな
自動水やり機

2023

福岡未踏の人材発掘・育成コンソーシアム
BonsaiIoT
~盆栽特化型の育成サポートシステム~[コンテスト]——
【Maker Faire Kyoto2024】にてダブル受賞
・Young Maker Award Supportter's Choise
・Young Maker Award Staff's Choice

2024

九州大学初 採択

IPA独立行政法人
情報処理推進機構
「未踏アドバンスト事業」
盆栽のデジタルツイン化と
樹形美の科学盆栽のカタチの美を科学
する【BONSAIENCE】
として継続活動中2023 チャレンジ&
クリエイション(C&C)地球超低軌道衛星の
実現に向けたプラズマ
推進器の技術開発2023年
最優秀賞!

九創会

二期生
社会課題の分野：
宇宙産業の
拠点創出2024 チャレンジ&
クリエイション(C&C)地球超低軌道
衛星への需要調査
およびシステム設計
最適化2024年
最優秀賞!PARKS
スタートアップ
創出プログラム
採択マイクロ波電熱スラスタ
による革新的地球超低
軌道利用の実現

2025年度起業

Ouranox Technologies株式会社

超低軌道を長期間飛行することが可能な
衛星の運用を実現することを目的に、衛星
用スラスタの開発に取り組む

2025

- 福岡県宇宙関連ビジネス製品・サービス開発支援事業採択
- 福岡市研究開発型スタートアップ成長支援事業補助金採択
- 日本政策金融公庫 新規開業・スタートアップ支援資金

2023



URBANIX株式会社

「都市を、創造の舞台に。」をビジョンに掲げ、国内外の
都市の再開発・地域再生・不動産活用に関わる調査・企画・
プロデュース・実装支援を行う都市デザイン・戦略会社

スケールアップに向けた課題認識

2024

九創会

三期生

社会課題の分野：
都市不動産テックソーシャルX
アクセラレーション 第2期2024年
最優秀賞!社会実装が加速
実体規模の拡大
新規事業領域への拡張2024 チャレンジ&
クリエイション(C&C)

コエメモ

2024年
優秀賞!2024 QRECアクセラレーション・プログラム
2025春(QSAP02)

コエメモ

2025 チャレンジ&
クリエイション(C&C)PARKSスタートアップ創出プログラム
(学生PJ Step1) 採択手書き文字及び音声の活用による
看護領域特化のAIエージェント開発

2025年2月起業

株式会社TomoaZ

AIで看護師の情報共有を効
率化し、労働負担と病院の
残業コストの軽減を目指す

2024 アイデア・バトル(IB)2nd

Q-DELIVERY

2025年度起業

株式会社basiq

食料品配送サービスの運営。
食料品へのアクセス改善という一つの切り口から持続可能な地域社会づくりに挑戦。
買い物難民のための食料品プラットフォームの機能拡張と、マーケティングの強化に取り組む。福岡市ソーシャル
スタートアップ
成長支援事業
認定

STUDENT
INITIATIVE
PROGRAMS 1

アイデア・バトル [IB]



あなたの独創的で
イノベティブ(革新的)な
発想を世界へ!!

アイデア・バトルは、学生が
温めている独創的で荒削りな
アイデアを潜在的なニーズや
競合技術、知的財産権の事前
調査を行うことやメンターか
らのアドバイスを受けること
で、より現実的なプロジェクト
提案を可能にするプロジェ
クトです。



✓ 2025年度のテーマと採択件数は次のとおりです。

テーマ区分	件数
情報通信技術ICT(Webビジネスを含む)	13
グリーンテック(環境技術)	5
ビッグデータ(統計解析)	0
Base Of Pyramid(BOP)	0
アグリバイオ／ヘルスケア	8
その他	4

1st Battle

応募:28件 採択:21件

2nd Battle

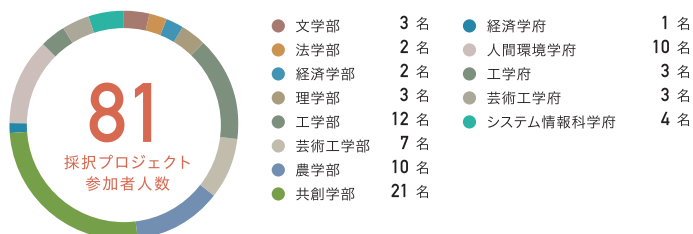
応募:16件 採択:9件

●審査会
2025年5月25日(日)

●成果報告会
2025年8月8日(金)

●審査会
2025年11月9日(日)

●成果報告会
2026年2月17日(火)

STUDENT
INITIATIVE
PROGRAMS 2チャレンジ&
クリエイション [C&C]

九州大学基金の助成を受け、
一年間かけて推進していく
全学プロジェクト

チャレンジ&クリエイション
(C&C)は、「キャンパスから挑
戦と創造の風を起こそう」をテ
ーマにかかげ、九州大学の学
生のユニークなアイデアや研
究プロジェクトの実現を助成
する全学事業です。

1997年にスタート後、毎年
実施、九州大学の独自性を示す
象徴的な教育プロジェクトと
なっています。

2025年度は、応募総数31件の中から、8件のプロジェクトが採択されました。
(2026年3月時点)

採択プロジェクト

プロジェクト名	代表者名	学部・学部	学年
《最優秀賞》 REGIS ― 地域防災と小規模自治体のDXを支える統合プラットフォーム	尾山 幹大	システム情報科学部	M2
《優秀賞》 人工臓器を支援する次世代AI搭載バイオ3Dプリント・サービス拠点	梁 爽	システム生命科学部	D1
《優秀賞》 紙飛行機少年に捧ぐ本格飛行機設計プラットフォーム	森 隼人	工学部	M2
《優秀賞》 Voice-to-Beat DAW	金木 王	経済学部	B4
ミツバチ触角を用いた匂いセンサー	西村 齊明	理学部	B3
九大芸能事務所	藤原 涼	法学部	B4
多値偏波変調による次世代超高速無線リンクに関する研究	川野 聖人	システム情報科学部	M2
疾患特異的miRNAを検出するナノテクノロジー基盤の簡便・迅速診断技術の開発	村山 拓己	理学部	B4

外部審査員

古賀マネージメント総研株式会社	代表取締役	古賀 光雄 氏
株式会社西日本新聞社	報道センター記者	仲山 美葵 氏
株式会社まちのわ	代表取締役社長	入戸野 真弓 氏
福岡市	経済観光文化局 創業推進部 創業・大学連携課	大塚 理紗 氏
PwCコンサルティング合同会社	シニアマネージャー	草野 秀樹 氏

(2026年3月時点)



年間スケジュール

- 応募者審査会/2025年5月17日(土)
- 中間報告会/2025年11月1日(土)
- 成果報告会/2026年2月17日(火)
- 受賞者表彰式/2026年3月24日(火)
@九州大学 椎木講堂 特別応接室



STUDENT
INITIATIVE
PROGRAMS 3アントレプレナーシップ・
キャリアデザイン文理融合型の
起業家育成プログラム

『アントレプレナーシップ・キャリアデザイン』は、各界の第一線で活躍する方々を九州大学に招き、直にその言葉を聴き、質疑応答で意見を交わすことを通して「アントレプレナーシップ」を体感する、オムニバス形式のゲストレクチャー型授業です。

テーマ決め、招へい講師の選定、交渉、講義当日の構成等に関する企画・運営を学生委員が主体となって行います。

開講時期：秋学期 水曜日4・5限（2コマ連続）

🔴 テーマ：多様性とAIが織りなす共創の社会

🔴 年間スケジュール [4-5月] ● 実行委員立ち上げ → [5-9月] ● テーマ決め ● ゲスト講師との打ち合わせ ● ポスター作成 → [10-11月] ● ゲスト講師による各テーマ別講義

[2025年度実施状況]

(2025年11月時点)

日 程	ゲスト講師
第1回 10/8	ガイダンス
第2回 10/15	ZACROS株式会社 / 大阪大学 招聘研究員 松吉 祐児氏
第3回 10/22	株式会社グルーヴノーツ代表取締役会長 佐々木 久美子氏
第4回 10/29	株式会社ペンシル代表取締役社長CEO 倉橋 美佳氏
第5回 11/5	株式会社ほっと不動産代表取締役社長 浅山 凌氏 / 取締役 COO 相良 郁也氏
第6回 11/12	株式会社Arthron代表取締役 荒木 啓充氏
第7回 11/19	キッザニアジャパン(KCJ) GROUP株式会社) 事業開発部 福岡サテライト 木本 香苗氏
第8回 11/26	株式会社アクボニ代表取締役 濱田 健吾氏

🔴 学生委員：5名



文学部	7名
教育学部	1名
法学部	6名
経済学部	5名
理学部	1名
薬学部	2名
工学部	3名
農学部	7名
共創学部	11名
工学府	1名
生物資源環境科学府	1名

STUDENT
INITIATIVE
PROGRAMS 4九大祭
起業体験プログラム
[QSHOP]

九大祭を通じて、
会社経営の基礎を学び、
実際の会社運営を
体験していくプログラム

九大祭起業体験プログラム
(QSHOP)は、九大祭を通して
起業・経営、会社設立のプロセ
スを学ぶプログラムです。

2011年度から開始したプ
ログラムで実際に現金を使い
起業の流れを実体験するもの
で、プロジェクト・ベースド・ラ
ーニング(PBL)のひとつとし
て位置づけています。



2025年度は、7チームが出店し、総勢54名が参加しました。

株式会社 Borsch?	ウクライナ人シェフが作る本格ボルシチとビーツ、ビーツパウダーの販売
株式会社GCC	カレーライスの販売
きなりアトリエ	オリジナル編み物雑貨
株式会社 いとんじる	糸島野菜がたっぷりの具沢山豚汁
株式会社 和らびや (大石ゼミ)	わらび餅ドリンクの販売
サンキュー! マッスル	マッスルバー
株式会社 mitsubachi	古着屋さん

🔴 スケジュール

[4月] ● 参加者申込締切

[5月] ● ルール説明会

[8月] ● 商品・サービス試作

[9月] ● ビジネスプラン発表・株価交渉 ● 会社設立・登記

[11月] ● 九大祭

[1月] ● 会計監査 ● 株主総会 ● 表彰・会社清算



2025年度は、ROE (Return on Equity / 自己資本利益率)の数値だけでなく、税理士・VCの方々による多角的な観点からの評価を踏まえ、総合的に高い評価を得た【株式会社 Borsch?】【きなりアトリエ】が優勝しました。

STUDENT
INITIATIVE
PROGRAMS 5

アカデミックチャレンジ
[AC]



研究助成をうけ、
学生研究のマネジメントを
習得するプログラム

アカデミックチャレンジ(AC)
は、九州大学に在籍する大学院
生を対象にした研究助成です。
学生自らが研究計画を企画し、
必要な資金を手当てし、実際の
研究を行う、この一連の実践を
通じて「研究マネジメント」を習
得することを狙いとしています。

2025年度は、応募総数25件から7件の研究プロジェクトが採択されました。

● 採択プロジェクト

申請テーマ	氏名	学府
水素結合ネットワークを活用した多孔質有機結晶の革新的分離・センシング技術	山本 雄世	工学府
複数近接覚センサを用いた形状柔軟多指ロボットハンドの状態推定	森田 雅人	工学府
マクロファージ貪食活性化を基盤としたがん治療へのドラッグ・リポジショニングと基礎/臨床/育薬融合研究	鶴崎 文彬	薬学府
ヒト型自己反応性B細胞の病原性解明と標的治療法開発に向けた新規マウスモデルの創出	伊藤 鈴華	医学系学府
Ti6Al4V製歯科矯正用アンカースクリューの炭酸アパタイトコーティングによる矯正治療の効率化	竹花 紗矢	歯学府
Evaluating the Effects of Aromatherapy on Executive Functions: An EEG Study	Chi T. Q. Tran	システム生命科学府
人工チャネル複合合成二分子膜開発による高透過性・選択性・安定性気体分離膜の創製	竹綱 公祐	工学府

(2026年3月現在)

● 年間スケジュール

● 応募者審査会(書類審査)2025年5月13日(火) → ● 中間報告会2025年10月29日(水) → ● 成果報告会2026年2月5日(木)



STUDENT
INITIATIVE
PROGRAMS 6

ジャンプ・アウト・
チャレンジ[J.O.C]



学外で他流試合！
貴方のアイデアプランを
試してみよう！

ジャンプ・アウト・チャレ
ンジ(J.O.C)は、九州大学
学生に国内の学外ビジネ
スプランコンテスト、プロジ
ェクトコンテストへの参加
を促すプロジェクトです。
他流試合を経験することで
自らの立ち位置を確認し、
より広い視野に立ってプロ
ジェクトを遂行する能力を
助けます。



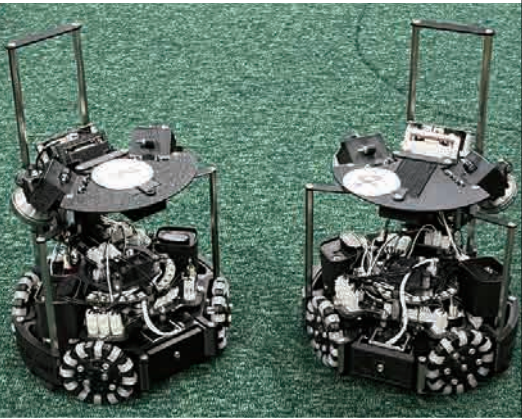
STUDENT
INITIATIVE
PROGRAMS 7

グローバル・
チャレンジ&
クリエイション
[G.C&C]



グローバルな世界に
チャレンジ！
海外の学生と戦おう！！

グローバル・チャレンジ
&クリエイション(G.C&C)
は、海外の学生ビジネスプ
ランコンペで外国の学生達
と競い合う機会、アイデア
から具体的に社会で価値を
生むサービスや製品を生み
出すプロセスを体験する機
会を提供し、国際社会で通
用する本格的なアントレプ
レナーシップ、イノベーション
感覚、グローバル性を育成
、習得することを目的とし
たプロジェクトです。



- 2025年度採択プロジェクト
Tachyon
- 参加コンテスト
RoboCup 2025 Salvador

「ロボカップジュニア2025関東
ブロック大会」優勝、「ロボカップ
ジュニア・ジャパンオープン2025
名古屋」にて3賞を受賞し、世界大
会へ出場。



アクセラレーション・プログラム

春プログラムより名称変更「テック・ブートキャンプ」



九州大学発イノベーションの促進を目的とし、大学院生とポスドク研究者の、技術アイデアを使ったプロジェクトの社会実装を高速で（＝アクセラレートして）支援するプログラムです。

7週間という短期間で、プロジェクトの社会実装のPoC（＝概念実証：試作開発に入る前段階の検証）獲得を支援します。

さらに、プログラム終了後にプロジェクトの継続を望むチームに対しては、社会実装の次のステップへの接続やその他公的資金の獲得、外部資金獲得を支援します。

※学部生は、QRECの他プログラム採択者に限り、審査の上で参加が認められる場合があります。

2025年夏
【QSAP03】

採択プロジェクト名	代表者氏名	所属
地球規模で考えろ周船寺	塩尻 遼太	システム情報科学府
Vello	柳 鷹	統合新領域学府
人工臓器を支援する次世代AI搭載バイオ3Dプリント・サービス拠点	梁 爽	システム生命科学府
多値偏波変調による次世代超高速無線リンクに関する研究	川野 聖人	システム情報科学府
Voice-to-Beat DAW	金木 王	経済学部

- 8月11日(月・祝)Session1・2 — キックオフ・プロトタイプ作成 / 仮説検証をする・潜在顧客インタビュー
- ※当初は1泊2日の合宿形式での実施を予定。大雨の影響により、Session 1・2を初日にオンラインで実施し、2日目のプログラムは実施見送り。
- 8月21日(木)Session3 — 中間ピッチに備える
- 登壇者
- ・株式会社Actra 代表取締役 竹内 啓人 氏
- 8月28日(木)Session4 — 中間審査
- 審査員
- ・SEENO PROJECT CEO/Planner 陣内 隆亘 氏
- ・GLEAP株式会社 代表 比嘉 恵一朗 氏
- ・GLEAP株式会社 取締役・技術責任者 西村 拡 氏
- ・九州大学 工学府 博士課程3年 小山 賢晋 氏
- ・九州大学 システム情報科学府 博士課程2年 谷澤 健太 氏
- 9月18日(木)Session5 — リソースを獲得する
- 登壇者
- ・ハートネット病院 部長 野瀬 大補 氏
- ・九州大学 システム情報科学府 博士課程2年 谷澤 健太 氏
- 9月25日(木)Session6 — 最終審査
- 登壇者
- ・62Complex株式会社 代表 橋本 司 氏
- ・九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 古橋 寛史 氏
- ・九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 原田 裕一 氏
- 10月2日(木)Session7 — フォローアップセッション(オンライン)

(登壇順／所属は2025年10月時点)

2026年春
【QSAP04】

採択プロジェクト名	代表者氏名	所属
AunSound	金木 王	経済学部
水素サウナ	進 聡一郎	工学府
Golfary	キム ジチョル	共創学部
AKARIDO	濱崎 裕理	人間環境学府
SlideBox	赤道 洸太	工学部

- 2月18日(水)Session1 — キックオフ・プロトタイプ作成 (プロト開発合宿 1日目) 場所:いいかねPalette
- 登壇者
- ・九州大学 経済学部 学部4年生 林 春希 氏 ・九州大学 システム情報科学府 博士課程2年 谷澤 健太 氏
- 2月19日(木)Session2 — 仮説検証をする・潜在顧客インタビュー (プロト開発合宿 2日目) 場所:いいかねPalette
- 登壇者
- ・九州大学 システム情報科学府 博士課程2年 谷澤 健太 氏
- 2月26日(木)Session3 — 中間ピッチに備える
- 登壇者
- ・九州大学 工学研究院 学術研究員 鄭 飛揚 氏 ・九州大学 総合理工学府 博士課程3年 内海 忍 氏
- ・九州大学 工学府量子物理工学専攻 修士1年 塩田 恭平 氏
- 3月5日(木)Session4 — 中間審査
- 審査員
- ・62Complex株式会社 代表 橋本 司 氏
- ・九州電力株式会社 ビジネスソリューション統括本部 人材活性化本部 人材・組織変革グループ長 松田 直也 氏
- ・SEENO PROJECT CEO/Planner 陣内 隆亘 氏
- ・GLEAP株式会社 代表 比嘉 恵一朗 氏 ・GLEAP株式会社 取締役・技術責任者 西村 拡 氏
- 3月12日(木)Session5 — VCからのフィードバック
- 登壇者
- ・有限責任監査法人トーマツ 西日本アドバイザー 肥田 光 氏
- ・ベータ・ベンチャーキャピタル株式会社 ベンチャーキャピタリスト 赤瀬 太郎 氏
- ・テレポート株式会社 Co-Founder 野口 岳 氏
- 3月19日(木)Session6 — リソースを獲得する・最終審査に備える
- 登壇者
- ・九州大学 工学府・航空宇宙工学専攻 博士2年 小澤 翼 氏
- ・未来工藝研究所 Co-Founder Own Feet Project 代表 山岸 将大 氏
- 3月26日(木)Session7 — 最終審査・懇談会
- 審査員
- ・株式会社 Fusic 取締役副社長 浜崎 陽一郎 氏
- ・株式会社 仁設計 代表取締役／一級建築士 青木 仁敬 氏
- ・九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 古橋 寛史 氏
- ・九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 原田 裕一 氏
- 3月27日(金)Session8 — フォローアップセッション(オンライン)

(登壇順／所属は2026年3月時点)





九創会刮目基金奨励金



概要

明確な起業課題を持つ学生を選定し、重点的に長期的に支援。

■ 支援内容：

- 事業立上げ準備資金として助成金の支援、100万円～250万円を年2回、10月、1月に分けて支給。
- アラムナイ起業家および教員によるメンタリング。
- コミュニティ形成による相互学習機会提供と長期的な支援。



九創会について

九創会は、九州大学医学部出身で、株式会社ヘリオスを創業した鍵本忠尚社長から九州大学ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター（QREC）へのご寄附を契機に設立。九州大学を卒業した創業者たちの組織で、これからの日本を支える人材育成のサポートを目的とした組織。

10年の歳月をかけてアントレプレナーシップ教育をリードするモデル的存在となった九州大学のQRECを礎に、事業を創造し経営の実際を経験した九州大学の先輩が後輩学生に寄り添いサポート。九州大学からのイノベーション創出促進を図る目的として設立。

2025年度より、[一般コース]と新たにSaisei Venturesのご寄附を受けて開設したパイオ創業分野の研究シーズの事業化に並走して学ぶ[医歯薬コース]の2コース制で運営。



奨励金の 助成対象 となる 学生像

- (1) 現状に対して深い問題意識を持ち、そのことを多様な視点から没頭して考えることのできる学生
- (2) 未だ解決に至らない本質的かつ大きな社会課題を認識し、「自分がなんとかしたい!」という強い意欲を持つ学生
- (3) 安易なアイデアや流行に惑わされず、建設的批判精神を持って粘り強く社会課題の解決に取り組める学生
- (4) 一人では手に負えないことに対して一緒に活動してくれる仲間を自ら見出し、協働によって解決を図ることのできる学生
- (5) 本基金による活動を通じて、人間的に成長し刮目したいという強い志向を持つ学生



求められる 活動

- (1) 自身の問題意識を言語化し、解決したい社会課題を定義づける
- (2) 課題の解決方法を、流行や既存の枠にとらわれず、広く自由な発想で考案する
- (3) 考案した解決方法について、仮説検証（＝行動）を繰り返しながら、最終的にはビジネス化を通じて社会実装を目指す
- (4) 九創会のメンターを含め、多様な人々と対話し、賛同と具体的な協力を得ながら活動の継続性を確保する

※本基金による活動では、既存の枠にとらわれず新しい取り組みをする際には、方向転換や振出しに戻るように見えることも、取り返せる失敗は許容し、俯瞰で見ると前進の一つであると認識すること



2025年度実施スケジュール

2025/4-5	募集期間：4月7日(月)～5月12日(月)17:00まで	●応募総数 一般コース：43件 / 医歯薬コース：8件 ●採択者数 一般コース：3件 / 医歯薬コース：3件
2025/5-6	選考期間：第一次選考（書類選考）：5月19日(月) 最終選考（対面での面接） 学生のための社会的課題に対する認識の深さとビジネスの仕組みを使った解決のマッチングについて、対話を通じて選考を実施。	[一般コース]6月11日(水) [医歯薬コース]6月25日(水)
2025/7	キックオフイベント：7月19日(土)～7月20日(日) @古民家別荘 瑞梅寺苑 採択学生とメンターの顔合わせ、九創会の支援に関する最終的な目標や目的など、全体像を共有した。	
2025/7-2026/3	メンタリング：7月～3月	オンライン、対面など、必要に応じて各自とメンターが調整して実施した。
2025/12	中間報告会：12月5日(金)	採択者より活動の進捗報告を行い、メンターおよび他の採択者からの今後の活動への意見やアドバイスをもらう。また、学生からの発案により、より良い刮目基金とするための意見交換も実施。
2026/2	アニュアルミートアップ：2月15日(日)～2月16日(月) @沖縄 九創会アラムナイのコミュニティ活動。現役および歴代の採択学生、起業家であるメンターが一堂に会し、交流を深めました。	
2026/3	最終報告会：3月13日(金)	採択者より活動の進捗報告を行い、メンターおよび他の採択者からの今後の活動への意見やアドバイスをもらう。今後も継続してコミュニティとして活動をサポートしていく体制の構築を確認。



2025年度採択者

一般コース

九創会の大きな魅力は、挑戦する学生に対して資金面だけでなく、人との出会いや事業を見つめ直す機会、そして前に進むための視点を与えてくださる点にあると感じています。メンターの皆さまや他の採択者との対話を通して、自分の活動を単なる想いで終わらせるのではなく、社会に価値を生み出す事業として形にしていくことを考える貴重な機会をいただきました。

私は現在、ウクライナと日本を「支援する側・される側」という関係にとどめず、教育・文化・ビジネスを通じて対等なパートナーとしてつなぐことを目指しています。高校生の日本研修プログラムによる次世代交流に加え、今後は日本の企業や個人がウクライナをより身近に感じ、安心して訪問できるようなコンシェルジュ事業にも取り組んでいきたいと考えています。九創会で得たご縁と学びを力に、これからも挑戦を続けていきます。



理学部4年
チエチヨトキナ マリヤ



経済学部4年
林 春希



工学府博士3年
小山 賢晋

九創会で一貫して問われたのは、「自分は何を問題だと感じているのか」を徹底的に言語化することでした。私はこれまで技術的な面白さや新しさに目を奪われがちでしたが、「その課題は本当に解決すべきものなのか」「誰のどんな痛みに応えるのか」と問い続けられ、課題を本質から捉え直す思考の習慣を得ることができました。

また、九創会是一人ひとりの状況を尊重し、自分のペースで課題と向き合える場所でした。同じ志を持つ仲間との対話を通じて、自身の考えを何度も磨くことができました。

さらに、「失敗を前進として捉える」姿勢も学びました。仮説を立て、行動し、検証し、修正を重ねる。この繰り返しこそが社会実装への道であり、九創会で得た学びは、今後社会課題の解決に取り組む上での核となる指針であり続けると確信しています。

医歯薬コース

「自分は何をしたいのか。そして、それは本当に自分である必要があるのか。」この1年間、九創会の中で何度も自問自答してきました。また、民間企業として経済性を担保しながら事業を続けること、自分が取り組もうとしていることは本当に社会的意義があるのかについても深く考え続けた一年でした。

九創会には、単に起業を目指す人が集まっているのではなく、それぞれが自分の人生や価値観、事業の存在意義に本気で向き合う人たちが集まっています。だからこそ、ここで交わされる議論は時に厳しく、耳の痛いものでもあります。その一つひとつが自分を成長させてくれました。

何かを相談すれば、共感だけでなく本質的な問いや鋭い指摘が返ってくる。そんな環境だからこそ、自分を本気で試したい人、自分のやりたいことに真剣に向き合いたい人には、ぜひ一度この門を叩いてほしいと思います。

4期から始動した医歯薬コースに採択いただきました。私は、周囲が製薬企業などの研究機関へ就職していくなか、既存の仕組みを変えて薬を生み出すことに興味を持っていました。また、VCでのインターンを通じて、若手起業の成功例が増える一方で、ディープテック起業の難しさや課題も感じていました。

そんな中、ご縁をいただいた九創会には、志が高く、深く課題と向き合う方ばかりが集まっており、特に突き抜けた九大生の皆さんと仲間になれたことは大きな財産です。鍵本先生をはじめメンターの皆さん、Saisei Venturesの齊藤さん、和田さんには多大なご支援をいただき、創業の基本やVCの視点を学ぶことができました。

また、多くの先輩方から「学生時代にこのようなプログラムはなかった」と言われるほど、恵まれた環境であることも実感しています。採択期間終了後も、このご縁は何にも代えがたい大切な財産であり、応募を迷っている方にはぜひ勧めたいコミュニティです。

九創会での活動は、私に「研究の価値とは何か」を改めて考えさせる契機となりました。私はこれまで神経障害性疼痛の研究に取り組む一方で、創業ベンチャーキャピタルでのシーズ探索や、大学・ARO・企業を横断する活動に関わる中で、優れた研究成果を有していても、多くが事業化に至らず社会に届いていない現状を強く認識するようになりました。

九創会でシーズの事業性評価や投資家との対話に関わる中で、研究の価値は成果そのものだけでなく、それを社会に届けるための設計によって大きく左右されることを学びました。そして、「研究の初期段階」から出口を見据え、「誰に、どのように届けるのか」を意識した設計の重要性を強く認識するようになりました。

今後は、神経免疫という専門性を深化させながら、研究の出口を自ら定義し、創業・事業化を前提とした研究を実践することで、基礎から社会実装までを一貫して担う研究者を目指します。



理学部3年
西村 齊慧



生物資源環境科学府博士2年
野寄 裕暉慧



医学系学府博士2年
吉富 小都

(2026年3月現在)

FOCUS ON

5

FACILITIES



伊都キャンパス センター5号館 7階

伊都キャンパス センター6号館 2階



学生の自由な発想で創造する。

QRECで提供しているチャレンジ&クリエイション(C&C)やアカデミックチャレンジ(AC)といった学生の独創的活動支援 Student Initiative Programs(S.I.P.)のプロジェクトに採択された九州大学の在学生、プレミアムメンバーズ、九創会などが、自由にミーティングや交流に利用できるスペースを提供しています。

2022年度から、週に一回、Baseを誰でも自由に利用できる、「QRECオープンハウス」を開始しました。講義やプログラム等の相談や仲間探しなど、多くの学生が集まり、ツナガル場となればと思います。

講演会やワークショップなど、多彩なイベントも開催し、学生のスキルアップやネットワークの拡大のための環境を整えています。



伊都キャンパス センター5号館 7階

学生がデジタル工作機器を利用してプロトタイプ等を制作するためのスペース。

QREC工房 工作機器一例



3Dプリンタ (AFINIA3D)



レーザー加工機 (trotec)

九州大学 伊都キャンパス



ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター

QRECプレミアムメンバーズ認定制度

QRECが公認する学生クラブの認定制度「QRECプレミアムメンバーズ」。学生が主体的に継続している活動を支援するものです。



QRECプレミアムメンバーズの種類

QREC
PREMIUM
MEMBERS

タイプ1 | プリームス | C&Cの最優秀賞獲得者並みで、自主的な活動への認定。認定期間3年間。

QUSIS
(九大起業部)

熱意を持った学生同士が互いに刺激し合い、「何かに挑戦したい」という思いを育み、社会へと広げていくことを目指すコミュニティ



Gene Rate

合成生物学の研究や国際大会への出場、科学コミュニケーション活動を通じて、研究力向上と科学の普及に取り組む

九州大学
PLANET-Q

ハイブリッドロケットやCansat、モデルロケット、スペースバルーンの開発に取り組む宇宙開発団体です。QREC工房のデジタル工作機器を活用し、機体性能の向上と技術力の向上を図る

九州大学
鳥人間
チーム

人力滑空機的设计・製作を通じて、航空工学とものづくりの発展に挑戦する学生団体です。「鳥人間コンテスト」への出場を通じて、独自技術の研究開発と技術継承に取り組む

GLEAP

「世界で通用するIT人材の育成」を目指し、プログラミング講習会の実施やエンジニアコミュニティの運営に取り組む

九州大学
ヒューマノイド
プロジェクト

二足歩行ロボットの製作・制御に取り組み、ものづくりの技術習得と競技大会を通じた技術交流を行う

九州大学
ロボコンチーム
KURT

ロボット製作を通じて技術力とものづくりの実践力を養い、NHK学生ロボコン優勝とABUロボコン出場を目指す

Kyushu
Bioinformatics
Community

データ解析に関する勉強会や交流会、情報発信を通じて、人と人をつなぎ、知識共有の場を創出する

九州大学
ロボット技術研究会

ものづくり系コンテストへの出場・入賞を目指し、ロボット開発や展示会への出展、ビジネスコンテストへの挑戦など、多分野での活動に取り組む

QREC
PREMIUM
MEMBERS

タイプ2 | スペルズ |

C&Cの採択者等、積極的にメンタリング等を実施。認定期間1年間。

QREC
PREMIUM
MEMBERS

タイプ3 | プライマリ |

アイデア・バトルの採択者あるいは学生の自主的申請に伴うもの。認定期間は、プロジェクト申請期間内(最長1年間)。

ご支援者芳名

QRECの活動にご参同くださり、ご支援いただきました皆様に、心から感謝申し上げます。



ロバート・ファン・Eセンター 教育研究基金

●ロバート・ファン 様

諸藤周平基金

●諸藤 周平 様

九創会刮目基金

●鍵本 忠尚 様
●Saisei Ventures

P48参照

九州大学基金「学生の自主的アントレプレナーシップ活動支援(通称S.I.P.)」事業

学生自身の社会に対する問題(もしくは課題)意識に基づいた「こんなこと、やりたい!」を支援するものです。学生の皆さんが、自らの学部・学府で学んだ知識を生かして、より実践的な場でアイデアをカタチにする機会をQRECが提供しています。

●酒匂 雅仁 様	2015年	法学部	卒業生
●加藤 環 様			学生保護者
●松田 貴光 様	1995年	工学部	卒業生
●滋野 悦子 様	2018年	工学部	卒業生
●荒川 豊 様		システム情報科学研究院	学内教員

九州大学基金「次世代アントレプレナー育成基金」事業

次世代のアントレプレナー育成のため、先進的かつ体系的な教育を推進していくために支援するものです。社会のあらゆる分野において新たな価値創造に積極的に挑戦するリーダー人材を育成するために必要な、アントレプレナーシップ関連の教育を全学に対して提供しています。

●國信 健一郎 様	2005年	薬学府／研究科	卒業生
●草野 秀樹 様			学外個人



寄附者さまからのメッセージ



●諸藤 周平 様
REAPRAグループ CEO

1977年生まれ。九州大学経済学部卒業。
エス・エム・エスの創業者、社長として同社の東証一部上場、アジア展開などを牽引し、退任。2015年にREAPRAをシンガポールにて創業。アジアを中心に世代を跨ぐ社会課題を解決する産業の創造に向けた学習支援を行う。9世代先を見据えた豊かな社会づくりを試行錯誤する一般財団法人雲孫財団も運営する。

皆さんはこれまで沢山勉強して九州大学に入学されたと思います。引き続き勉強も大切かと思いますが、これから社会に出ていくにあたっては、勉強というインプットだけではなく、世の中にアウトプットすることもぜひ試していただきたいと思います。
学生生活を通して起業精神を発揮し未来の社会を切り拓くことを心から期待しています!
社会で活躍されている方々や企業の皆様も学生のアントレプレナーシップの旅への支援をいただけると学生も非常に心強いかと思います!



●國信 健一郎 様
株式会社フェリクス 代表取締役

1982年、山口県生まれ。九州大学大学院薬学府修了、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科修了。医学博士。
2007年、ニプロ株式会社医薬品研究所に入社。その後、ニプロファーマ株式会社経営戦略室、ニプロファーマ・ベトナム管理部長、同渉外部長を経て、2019年よりニプロ株式会社にて米国事業に従事。2022年、株式会社フェリクス代表取締役に就任。九州大・薬学発の創業企業として、世界を見据えた医薬品開発に取り組む。
あわせて、福岡バイオコミュニティ推進会議企画運営委員として、福岡を中心とする創業エコシステムの発展にも貢献している。

世の中を観察し、課題に気づき、自身の想いを持って行動し続けることを大切にしてください。
九州大学・QRECでの多様な経験と人との出会いが、学生の皆さんにとって世界を広げ、自らの未来を切り拓き、ひいては日本の未来を形作るきっかけとなることを願っています。



●鍵本 忠尚 様
株式会社ヘリオス 取締役 兼
代表執行役社長CEO

九州大学病院にて眼科医として勤務の後2005年、1社目の大学発バイオベンチャーを起業。
2011年2月、再生医療の実用化を目指し当社設立。
2012年2月、当社代表に就任。
2015年6月、東証マザーズ上場。
難治性疾患に苦しむ患者さんへ治療と希望を届ける、という初心の実現に向け、再生・細胞医薬品という新たな産業創生に取り組む。

日本は太平の世に寝ぼけ過ぎた。技術植民地主義が世界を覆う今、ディープテックで闘える起業家なくて、この国に未来はない。
九創会は、九大から世界を揺るがす起業家を生み出す起爆装置である。刮目せよ。そして行動を起こせ。
若き起業家たちよ、時代の流れは自ら創るものであり、流されるものではない。心せよ。



●草野 秀樹 様
コンサルティングファーム勤務
九州大学 ビジネススクール非常勤講師(デザインシンキング)
熊本大学イノベーションリーダー育成プログラム非常勤講師

デザイン工学研究科修了。社会デザインからサービスデザインまで幅広く修学。
マーケティング会社で商品開発・プロモーション支援、総合コンサルティングファームで新規事業・イノベーション戦略に従事。
現在は、コンサルティングファームで産学官連携を中心にデザインシンキングを活用した新規事業開発や地域産業活性化支援、人材育成に携わる。

アントレプレナーシップでの学びは、新たな人たちとの出会いと、そこから得られる新しい視点や考え方、知識を取り入れることの楽しさや自らがアップデートされる喜びを知る機会でもあると思います。それらの“感覚”は、これからの変わり続ける社会において非常に重要だと感じています。
その感覚を胸に、将来の困難に対して自分らしく立ち向かえる自信を深めていかれることを期待し、応援をしています。